

旭川市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会 (令和8年度第1回)

審議事項 第1号

第10期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業 計画について

資料

- ・第10期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について（資料2）
- ・計画策定スケジュール及び計画策定体制（資料2 別紙1）
- ・調査結果【概要】（資料2 別紙2）



第 10 期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について

1 計画の策定根拠

(1) 高齢者福祉計画と介護保険事業計画を一体のものとして作成しなければならない

○ **高齢者福祉計画（老人福祉法第 20 条の 8）**

老人居宅生活支援事業及び老人福祉施設による事業（老人福祉事業）の供給体制確保や老人福祉事業量の目標等を定める。

○ **介護保険事業計画（介護保険法第 117 条）**

要介護認定者数や介護サービスの給付量を見込み、計画期間内のサービス基盤の整備方針や介護保険料等を定める。

(2) 認知症施策推進計画を策定するよう努めなければならない（努力義務）

○ **認知症施策推進計画（共生社会の実現を推進するための認知症基本法第 13 条）**

国の計画を基本として実情に即した計画を作成する。

高齢者福祉計画・介護保険事業計画と調和が保たれたものでなければならない。

本市においては、別途「旭川市認知症施策推進計画（仮称）」において認知症施策の方針を定め、本計画においては施策及び事業について進捗管理・評価を行うものとして、調和を保つものとする。

2 計画期間

令和 9 年度～令和 11 年度（3 年間）

3 第 10 期計画のイメージ

第 9 期計画の評価	(1)第 9 期の給付費・サービス量の評価 (2)施策（事業）の進捗状況の評価
第 10 期計画策定	(1)調査結果の分析（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査、在宅生活改善調査等） (2)人口・介護認定率・介護サービス利用の分析・推計 (3)介護保険施設・事業所・高齢者抜け住まいの状況の確認 (4)施策（事業）の計画・目標量の推計（認知症施策を含む） (5)第 10 期の給付費・サービス量（施設整備含む）の推計 (6)介護保険料の設定

4 計画策定スケジュール及び計画策定体制

別紙 1 のとおり

5 国の動向（基本指針）

国は、介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本方針を定めることとなり（介護保険法第 116 条第 1 項）、基本方針に即して 3 年を一期とする介護保険事業計画を定めることとされています。

今後、7 月頃に開催予定の社会保障審議会介護保険部会において、基本方針の本文案が諮られる予定となっています。

【基本指針に盛り込むことが考えられる主な事項のイメージ】

（令和 7 年度全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料より抜粋）

① 介護サービス基盤の計画的な整備

- ・ 2040 年を見据えた中長期的な推計を実施し、サービス提供体制の在り方を検討
- ・ 地域類型を念頭に置いた計画策定
- ・ 医療との連携や高齢者向け住まいの状況等を踏まえたサービス提供体制の構築

② 地域包括ケアシステムの深化

- ・ 総合事業の多様なサービス・活動の充実に向けたさらなる支援・分析・評価等
- ・ 頼れる身寄りがない高齢者等の地域課題解決に向けた地域づくりの推進
- ・ 認知症基本法を踏まえた取組の推進

③ 介護人材確保と職場環境改善に向けた生産性向上、経営改善支援

- ・ テクノロジーのさらなる活用等による生産性向上、協働化・大規模化の推進等による経営基盤強化等

6 第 10 期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた調査結果【概要】

別紙 2 のとおり

計画策定スケジュール及び計画策定体制

(1)計画策定スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◆ 国の動向等										
		基本指針の提示					報酬改定率等の係数を設定			
◆ 調査										
・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	分析									
・在宅介護実態調査	分析									
・在宅生活改善調査	分析									
◆ 第9期計画の検証										
・介護保険給付分析	給付費分析									
・検証、総括		検証・総括								
◆ 第10期計画策定										
・計画骨子の作成		骨子案の作成								
・事業目標量等の検討		事業目標及び予算の検討								
・施設整備			施設整備の検討							
・介護保険料の設定			介護保険料の推計・設定							
・計画素案・計画案の作成			計画素案の作成							
・パブリックコメント							パブリックコメント		結果の公表	
・条例改正（保険料等）									第1回定例会	
◆ 分科会										
・開催		第1回		第2回	第3回	第4回	第5回		第6回	
◆ 地域包括ケア庁内推進委員会										
・開催					第1回		第2回			第3回

(2)計画策定体制



第 10 期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定に向けた調査結果【概要】

(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査、在宅生活改善調査)

調査の目的

第 10 期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和 9 年度～令和 11 年度）を策定するにあたり、高齢者福祉を取り巻く課題を特定すること及び介護サービスの在り方を検討することを目的として実施した。

調査期間

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査：令和 8 年 2 月

在宅介護実態調査：令和 8 年 2 月

在宅生活改善調査：令和 7 年 11～12 月

調査の概要

調査名	調査対象	調査の趣旨	発送数	有効回収数	有効回収率
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	市内在住の 65 歳以上の高齢者 (要介護 1～5 の認定を受けている方を除く)	要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況、支援のニーズ等の把握	4,390 票	2,711 票	61.8%
②在宅介護実態調査	在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている市民のうち、認定の更新（区分変更）申請をした方	家族・親族等からの介護の現状や支援のニーズ、介護者の負担、就労継続との関係性等の把握	1,200 票	577 票	48.0%
③在宅生活改善調査	居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所（ケアマネジャー）	現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている利用者の実態把握、地域に不足する介護サービス等の検討	133 票	95 票	71.4%

目 次

調査の目的	1
調査期間	1
調査の概要	1
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【概要】	
1 回答者について	3
2 家族や生活状況について	4
3 からだを動かすことについて	6
4 食べることについて	8
5 毎日の生活について	9
6 地域での活動について	18
7 健康について	19
8 地域包括支援センターについて	24
9 終活について	25
10 認知症について	27
11 スマートフォンの利用について	30
12 ウェルビーイング	34
在宅介護実態調査【概要】	
1 在宅限界点について	35
2 仕事と介護の両立について	37
3 在宅療養者を支える支援・サービスについて	39
4 その他	40
在宅生活改善調査【概要】	
1 在宅生活の維持	41
2 在宅生活の維持が難しい理由	42
3 在宅生活の維持に必要なサービス	44

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【概要】

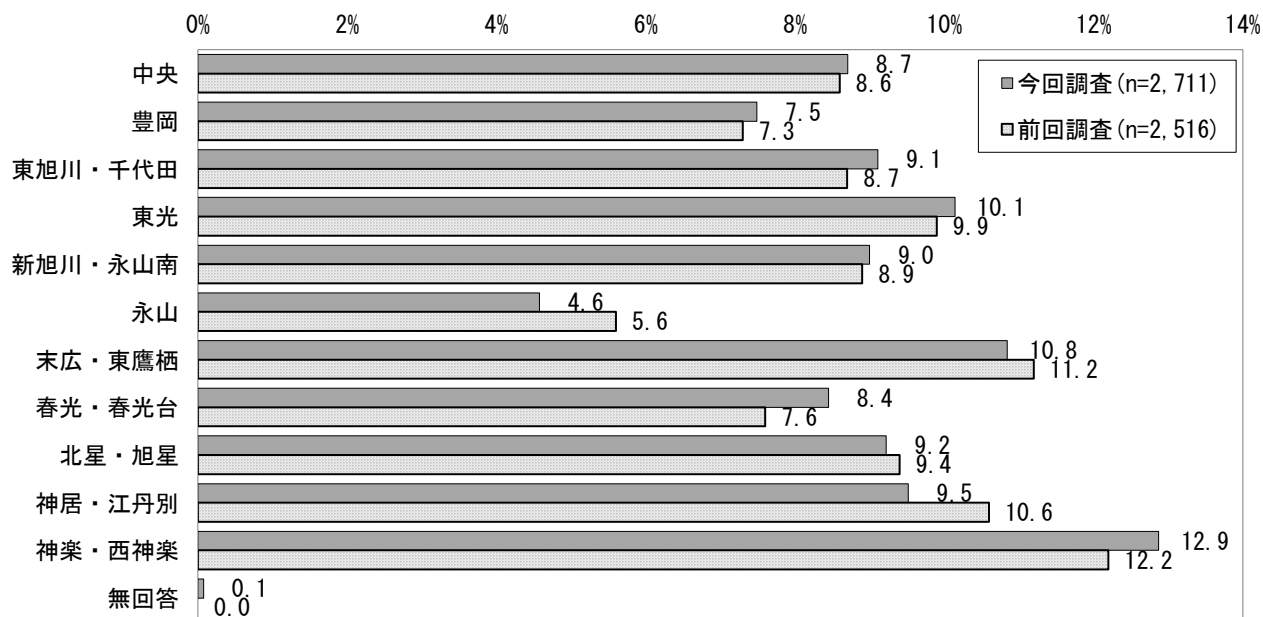
1 回答者について

(1)属性

回答者の性別は、「男性」が41.3%、「女性」が57.9%となっている。年齢は「65～74歳」が43.0%、「75～84歳」が43.7%、「85歳以上」が12.5%となっている。要介護度は、「非該当（自立）」が87.9%、「要支援1」が5.9%、「要支援2」が2.4%となっている。

(2)圏域

回答者の居住圏域の割合は、前回調査と大きな違いはみられない。



また、圏域ごとの回収率は次の表の通り。

圏域名	有効回収率	圏域名	有効回収率
中央	62.1%	末広・東鷹栖	62.7%
豊岡	62.1%	春光・春光台	64.0%
東旭川・千代田	64.0%	北星・旭星	63.3%
東光	62.1%	神居・江丹別	58.2%
新旭川・永山南	61.5%	神楽・西神楽	65.2%
永山	48.2%		

2 家族や生活状況について

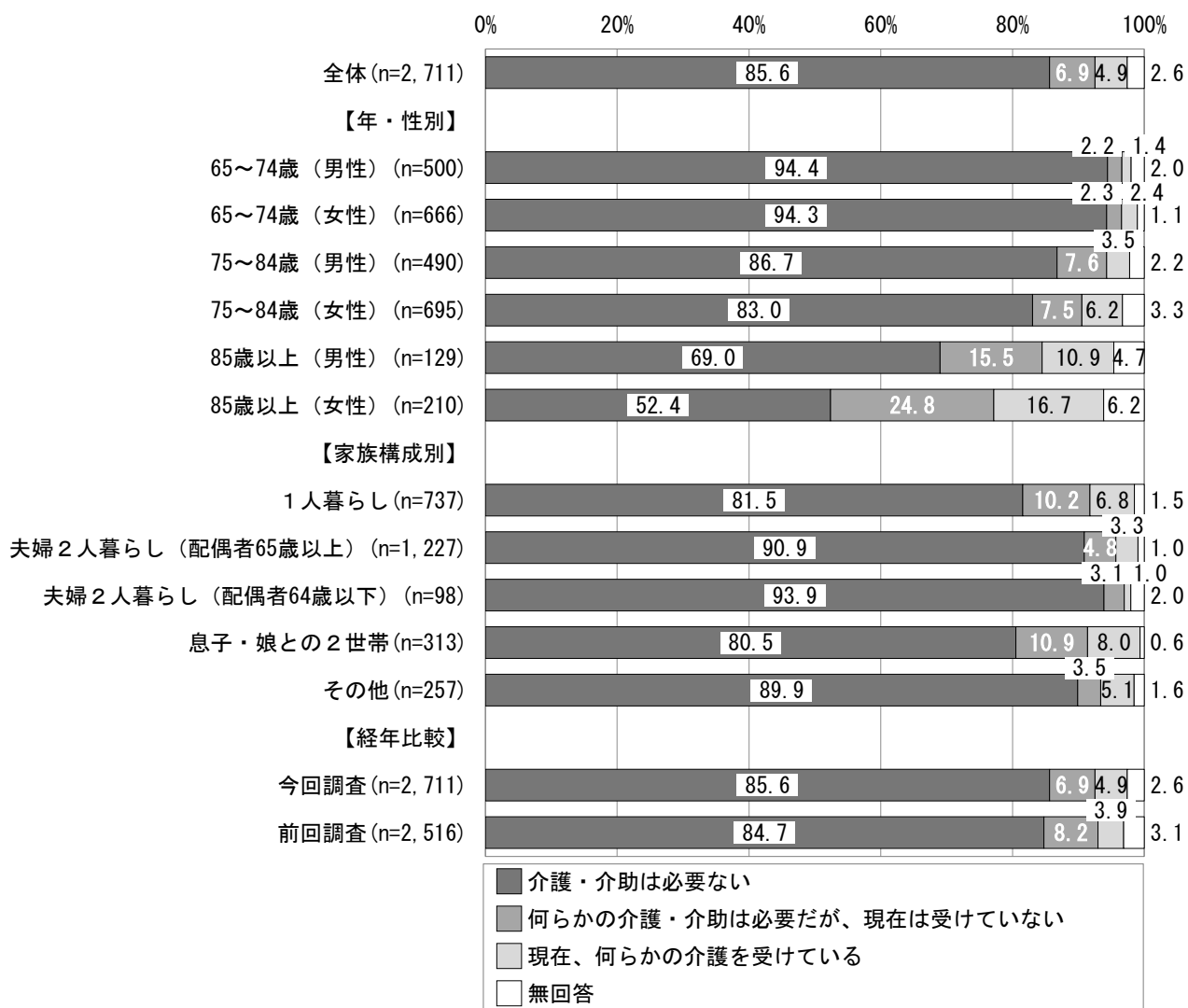
(1) 日常的な介護・介助

問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

日常的な介護・介助の状況について、年・性別にみると「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」人は、85歳以上の女性が特に高くなっている。

家族構成別にみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」人は、1人暮らしと息子・娘との2世帯が高くなっている。

経年比較では大きな違いはみられない。

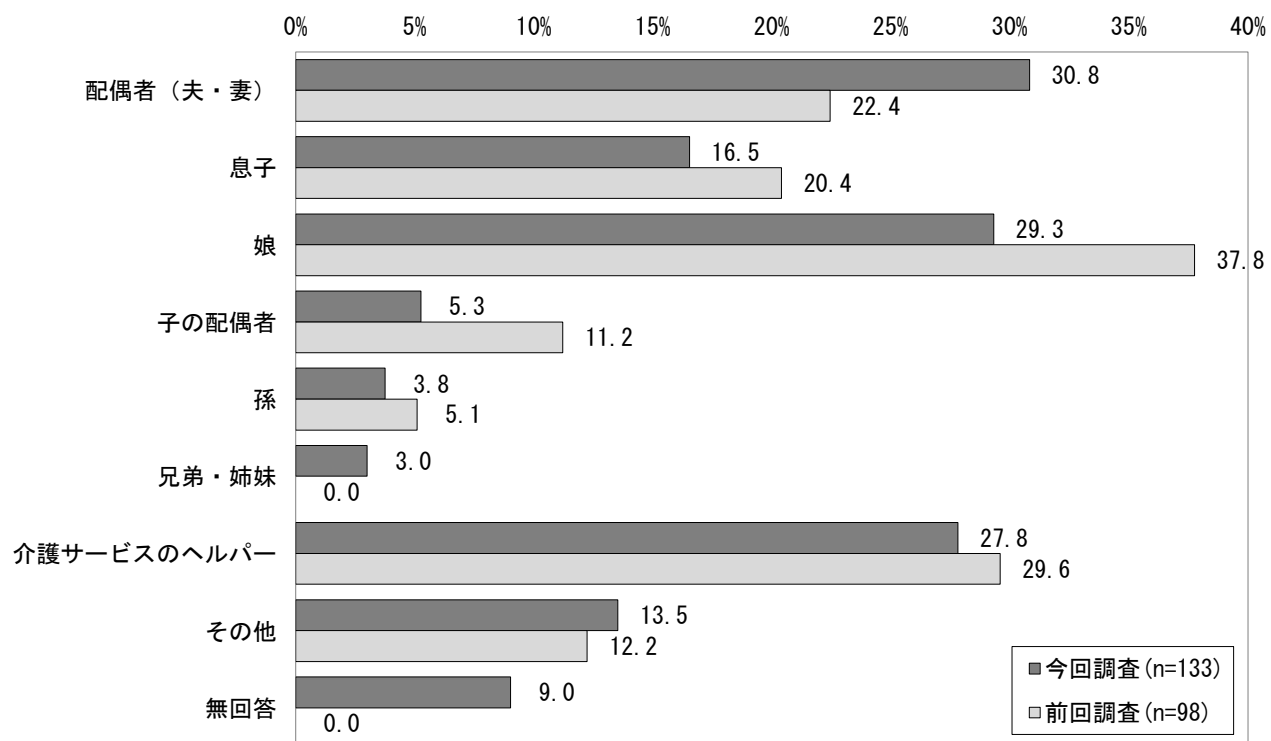


(2)介護・介助の担い手

問1 (2) ② 主にどなたの介護、介助を受けていますか (いくつでも)
 ※問1 (2) で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方に質問

全体では、「配偶者 (夫・妻)」が 30.8%と最も高く、「娘」が 29.3%、「介護サービスのヘルパー」が 27.8%と続いている。

経年比較では、「娘」が特に減少しており、「配偶者 (夫・妻)」に増加がみられる。

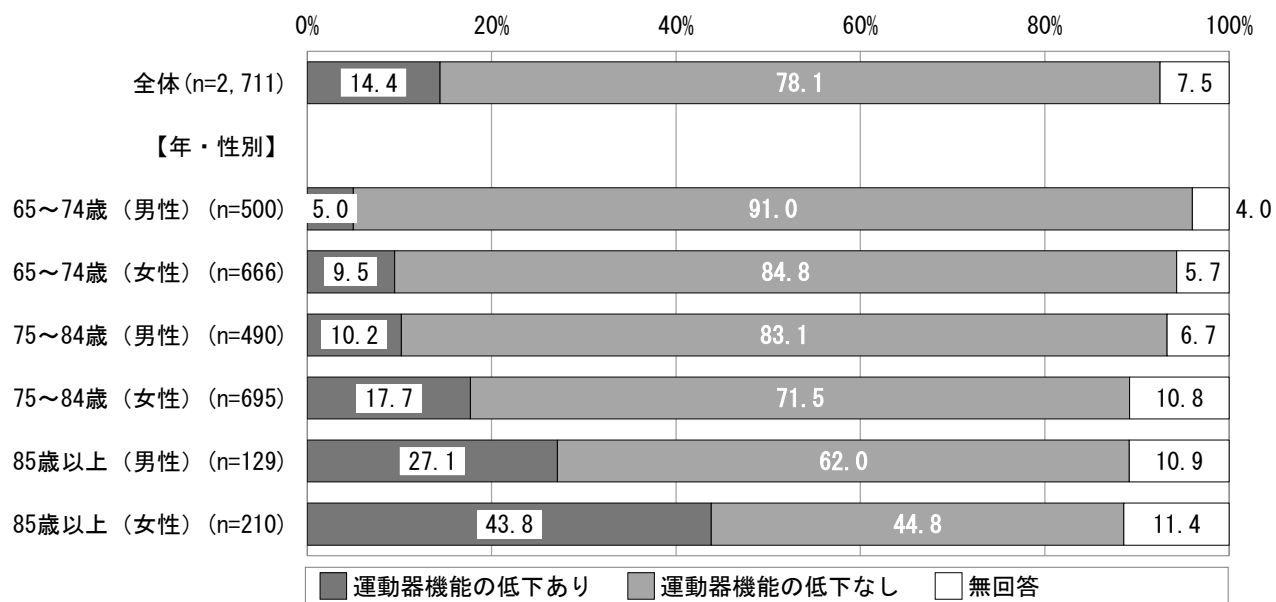


3 からだを動かすことについて

(1)運動器機能

複数の設問から運動器機能リスクの判定をすると、「運動器機能の低下あり」が 14.4%となっている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ「運動器機能の低下あり」は増加しており、いずれの年齢層も女性のほうが男性よりも「運動器機能の低下あり」が高くなっている。



判定基準：運動器機能リスク高齢者の割合

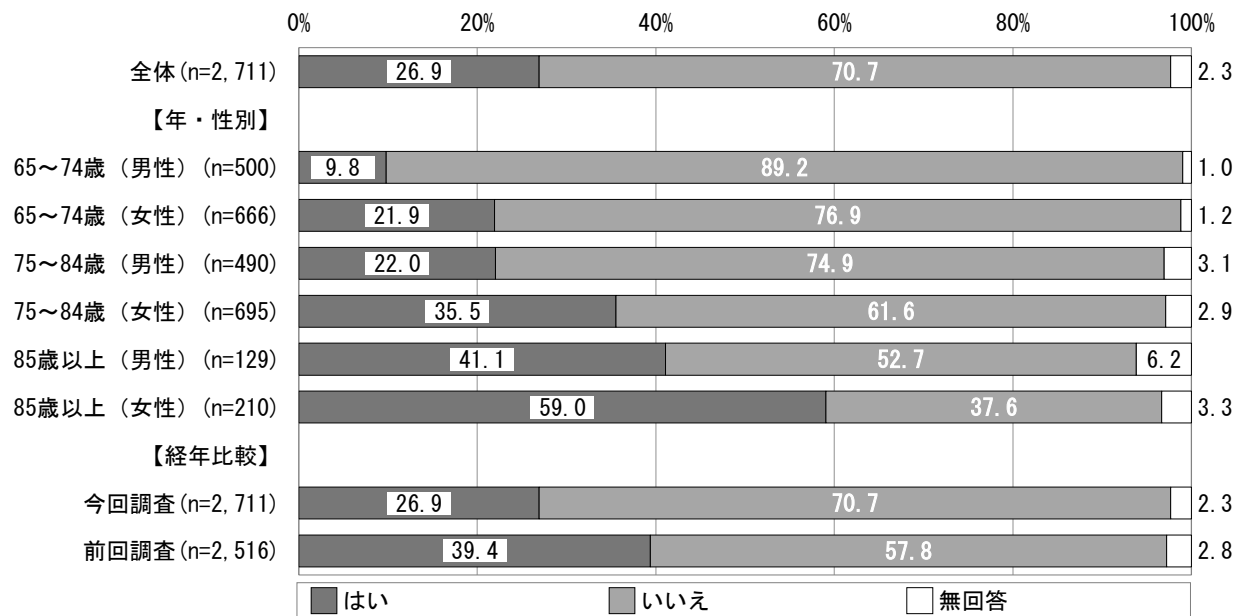
設問項目		回答				判定基準	
問 2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない		3 項目以上 が該当	
		非該当		該当			
問 2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない			
		非該当		該当			
問 2 (3)	15分位続けて歩いていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない			
		非該当		該当			
問 2 (4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	何度もある	1 度ある	ない			
		該当		非該当			
問 2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか	とても不安 である	やや不安で ある	あまり不安 でない			不安でない
		該当		非該当			

(2)外出頻度

問 2 (8) 外出を控えていますか

全体では、「はい」が 26.9%となっている。年・性別にみると、年齢があがるにつれ外出回数の減少がみられ、いずれの年齢層も女性のほうが男性よりも「はい」が高くなっている。

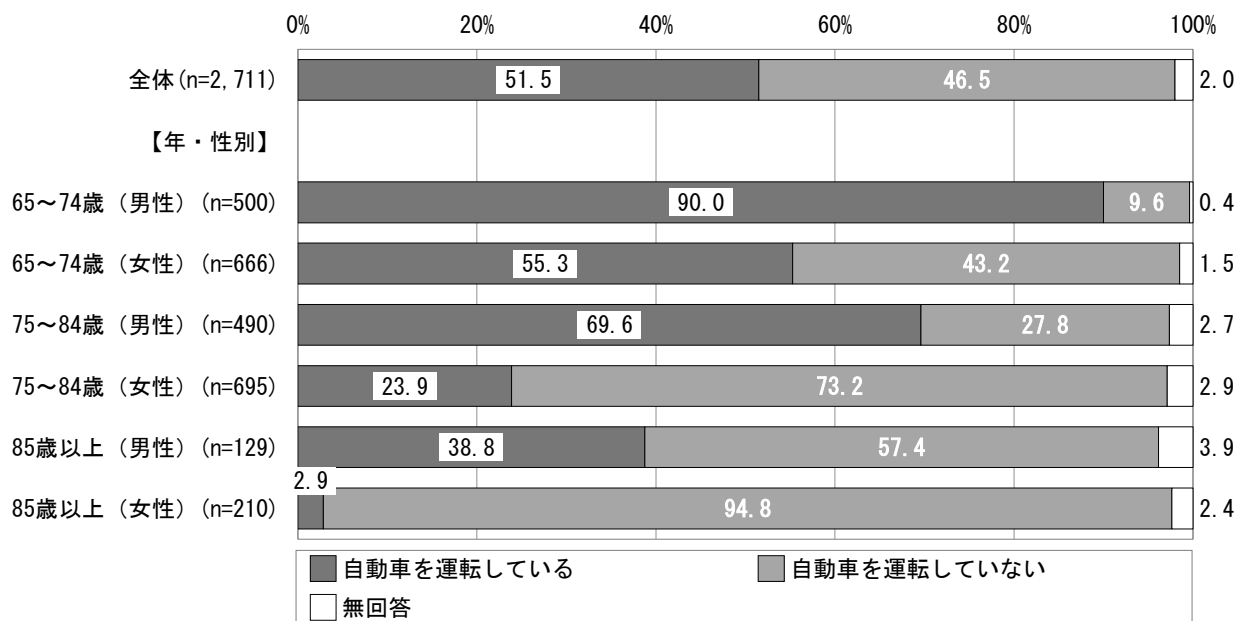
経年比較では、「はい」に減少がみられる。前回調査時はコロナ禍にあり、今回調査では感染症への不安が軽減しているものと考えられる。



(3)外出手段

問 2 (9) ① 自動車を運転しているか (問 2 (9) の結果より)

外出手段の中で、特に自動車運転についてみると、85 歳以上でも男性の「自動車 (自分で運転)」は 38.8%となっている。



4 食べることについて

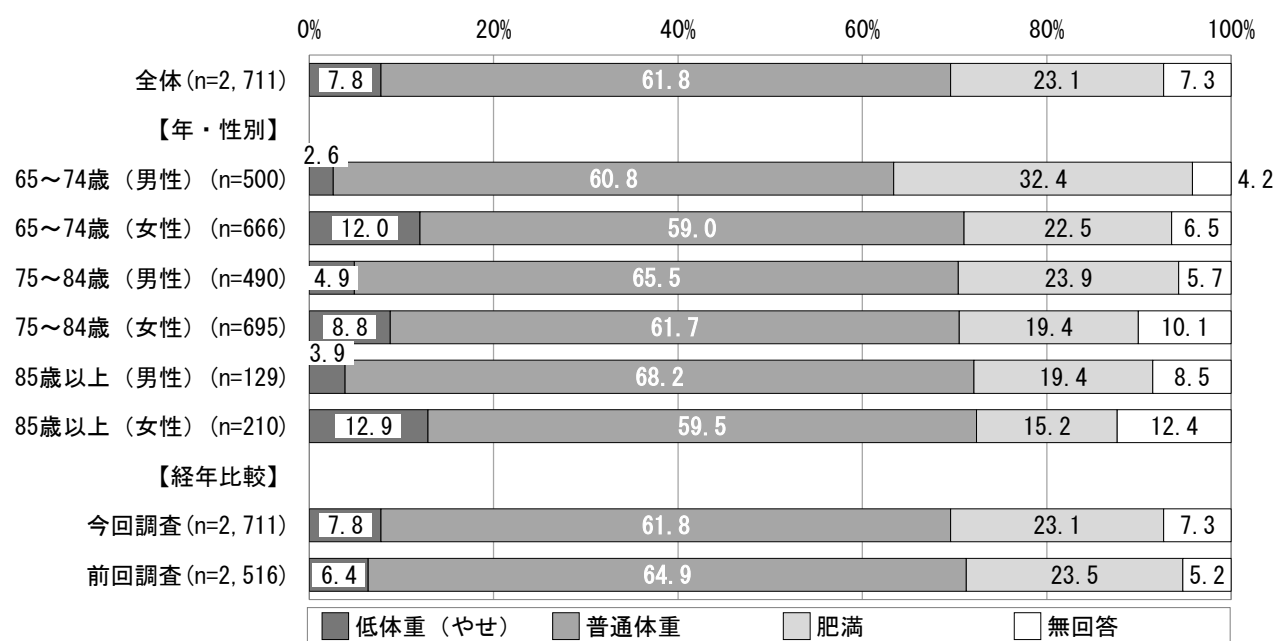
(1)BMI

問3 (1) 身長・体重

身長と体重から算出した BMI（肥満度を表す体格指数）について、25 以上を「肥満」、18.5～25 を「普通体重」、18.5 未満を「低体重（やせ）」と判定した。全体では、「低体重（やせ）」が 7.8%、「肥満」が 23.1%となっている。

年・性別にみると、65～74 歳の男性の「肥満」が 32.4%と最も高くなっている。また、いずれの年齢層も女性のほうが男性よりも「低体重（やせ）」が高くなっている。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。



(2)会食頻度

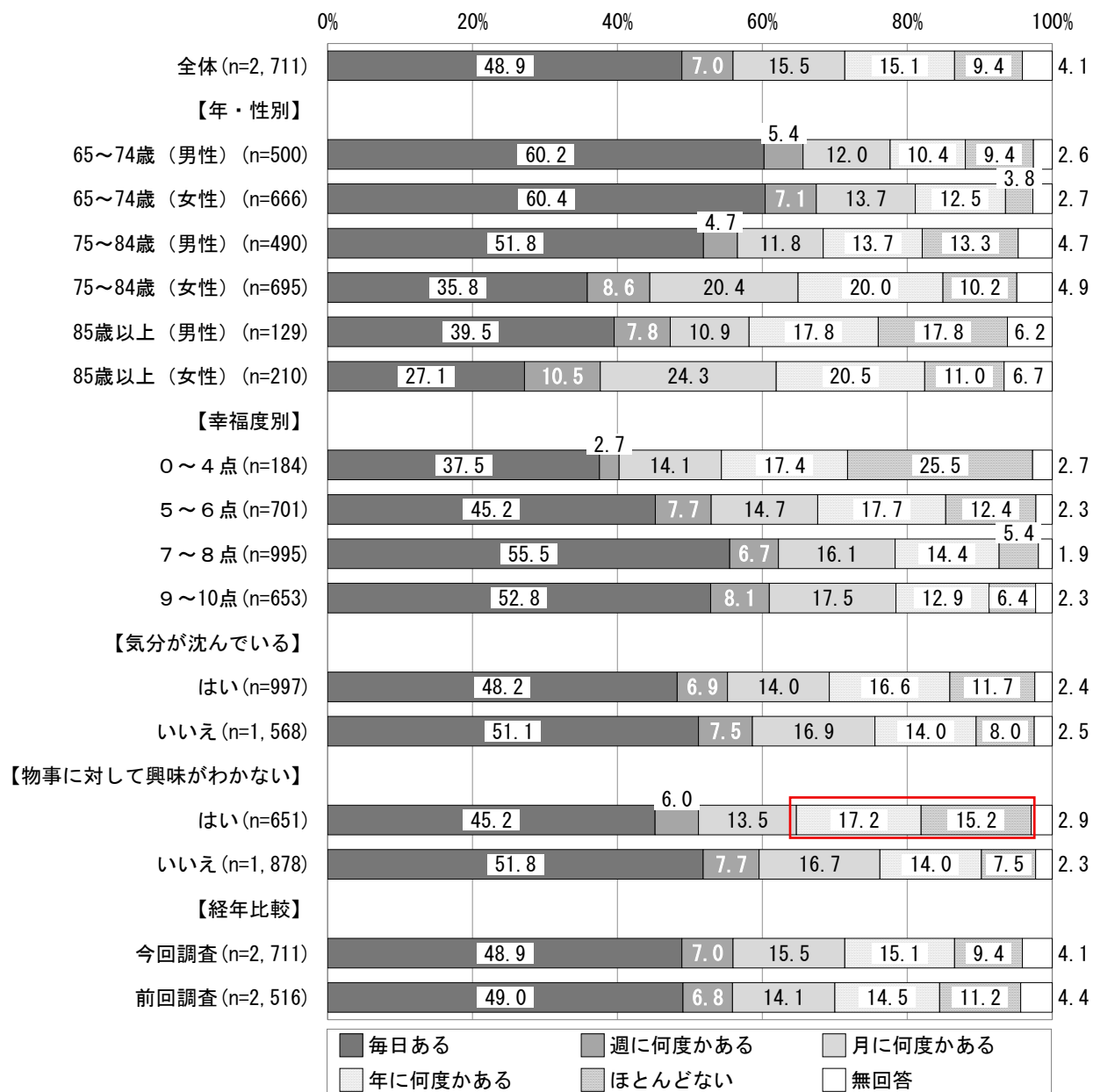
問 3 (7) どなたかと食事をとる機会がありますか

会食頻度は、「毎日ある」が48.9%と最も高くなっている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ「ほとんどない」は増加している。「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた『毎週ある』は、75～84歳以上では男性のほうが女性よりも高くなっている。

また会食は、個人の幸福感や鬱リスクと相関があることもうかがえる。

幸福度別にみると、幸福度7点以上はいずれも「毎日ある」が半数を超えている。鬱リスクの指標（気分の沈み、物事に対する興味）別にみると、気分の沈みの有無による大きな傾向の違いはみられないが、物事に対する興味がわからないことのある人は会食頻度が低い傾向がみられる。



5 毎日の生活について

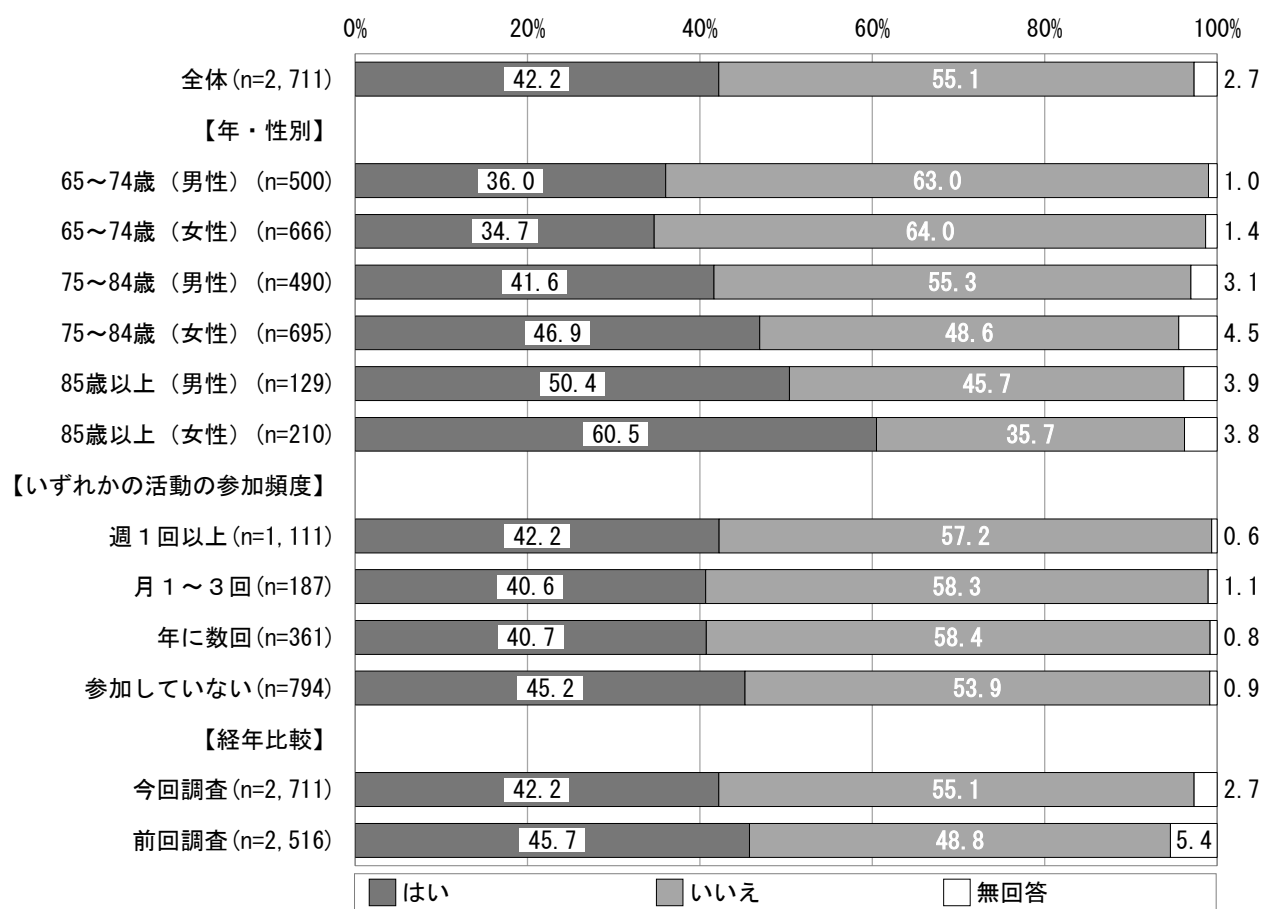
(1) 認知症リスク

問 4 (1) 物忘れが多いと感じますか

物忘れについて、年・性別にみると、年齢があがるにつれ増加している。75～84 歳以上では女性のほうが男性よりも高くなっている。

地域活動（いずれかの活動）への参加頻度（問 5（1））別で大きな傾向の違いはみられない。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。

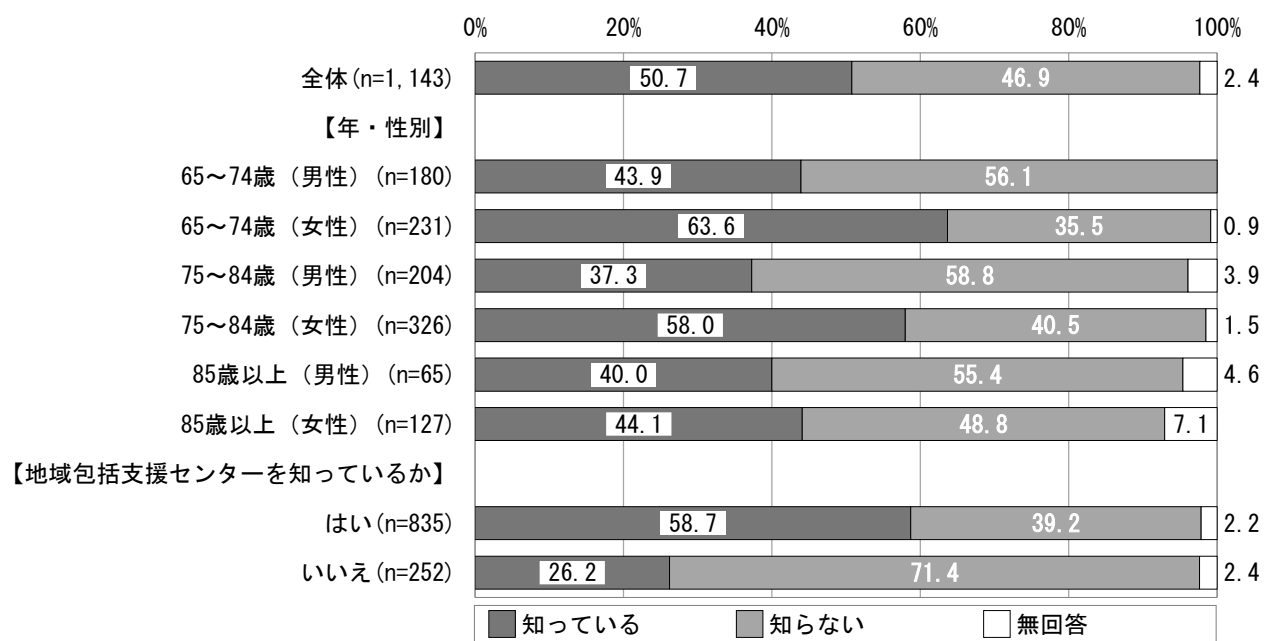


問 4 (1) ① 物忘れ外来を知っていますか
 ※問 4 (1) で「はい」と回答した方に質問

物忘れの自覚のある人の物忘れ外来の認知度は、50.7%となっている。

年・性別にみると、いずれの年齢層でも女性のほうが男性よりも認知度が高くなっている。

地域包括支援センターを知っているかどうかでみると、地域包括支援センターを知っている人は知らない人よりも、物忘れ外来を知っている割合が高くなっている。

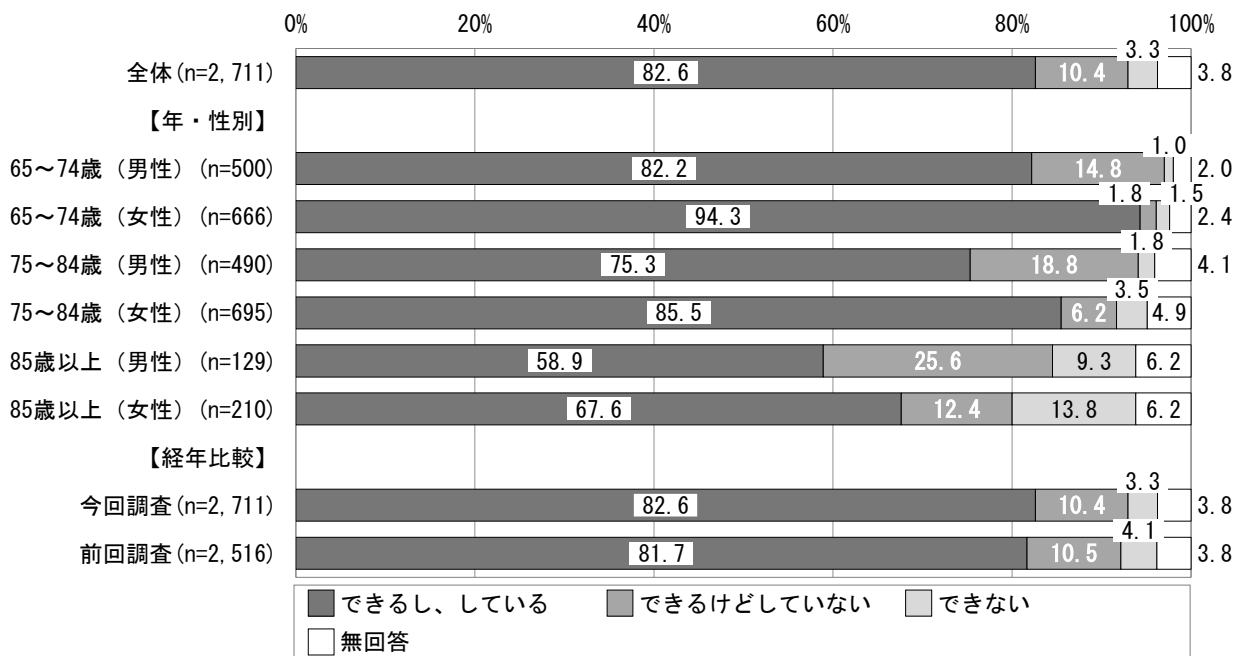


(2)日常生活

以下は、日常生活について聞いた設問で、性別による違いが大きかったものを抜粋した。

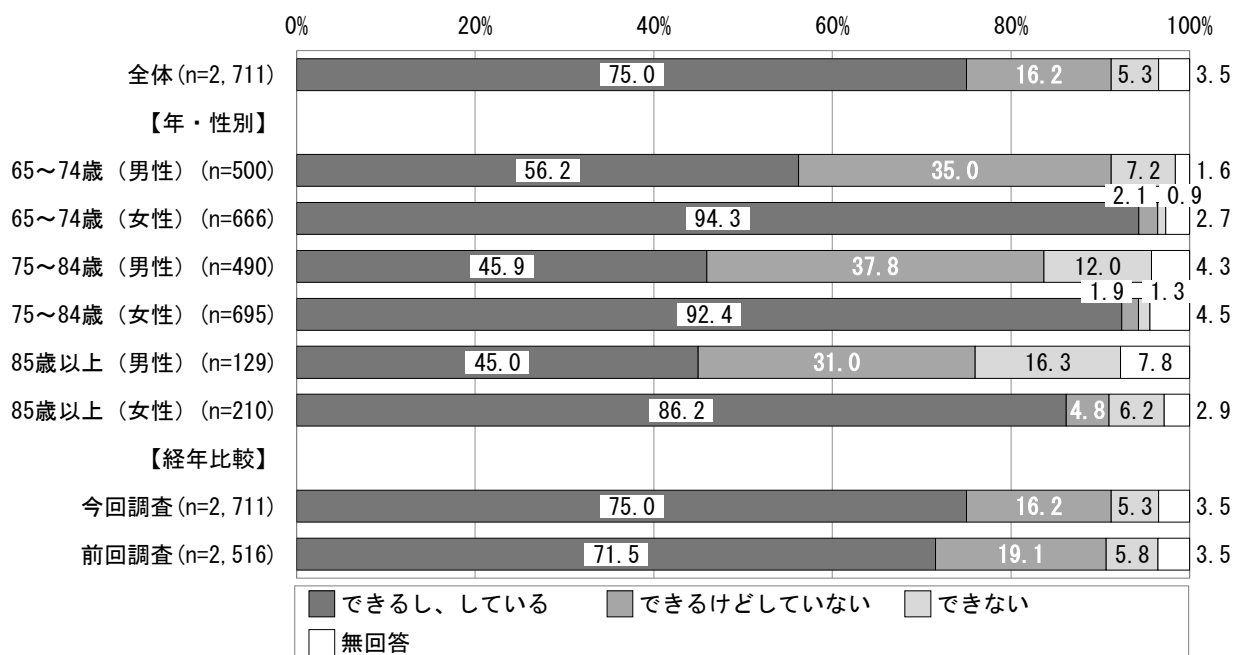
問 4 (5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

年・性別にみると、いずれの年齢層でも女性のほうが男性よりも、自分で買い物をしている割合が高くなっている。



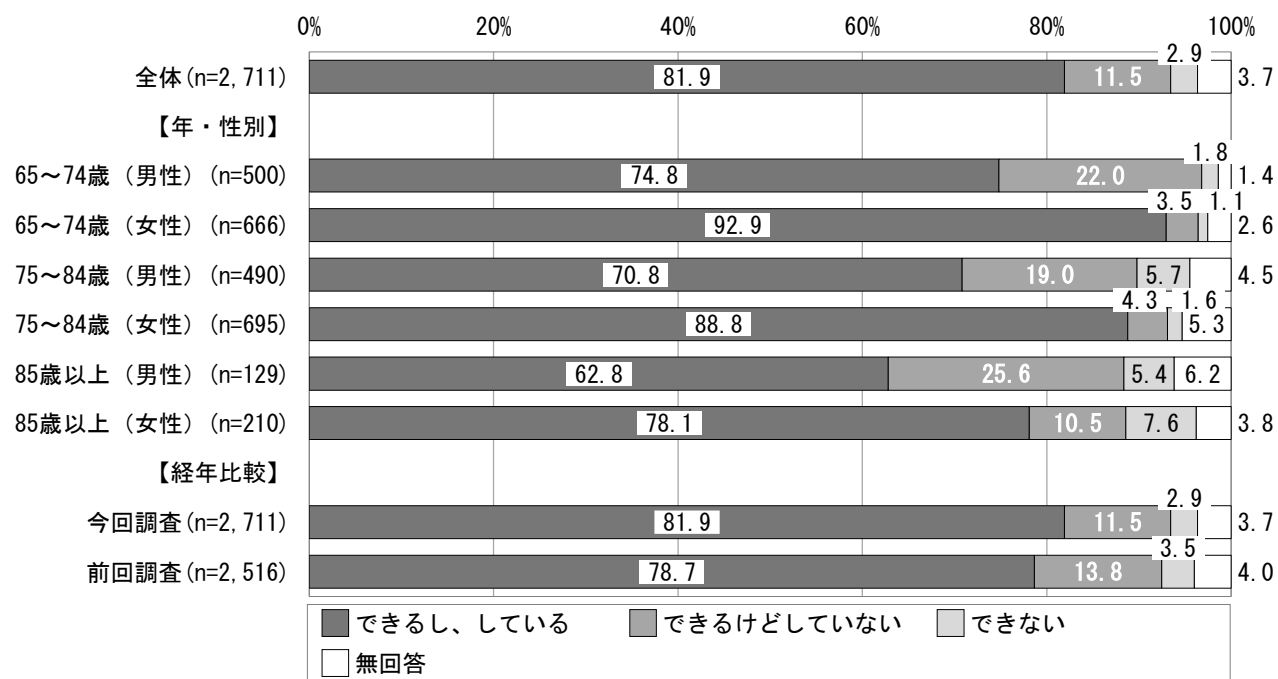
問 4 (6) 自分で食事の用意をしていますか

年・性別にみると、いずれの年齢層でも女性のほうが男性よりも、食事の用意をしている割合が高くなっている。



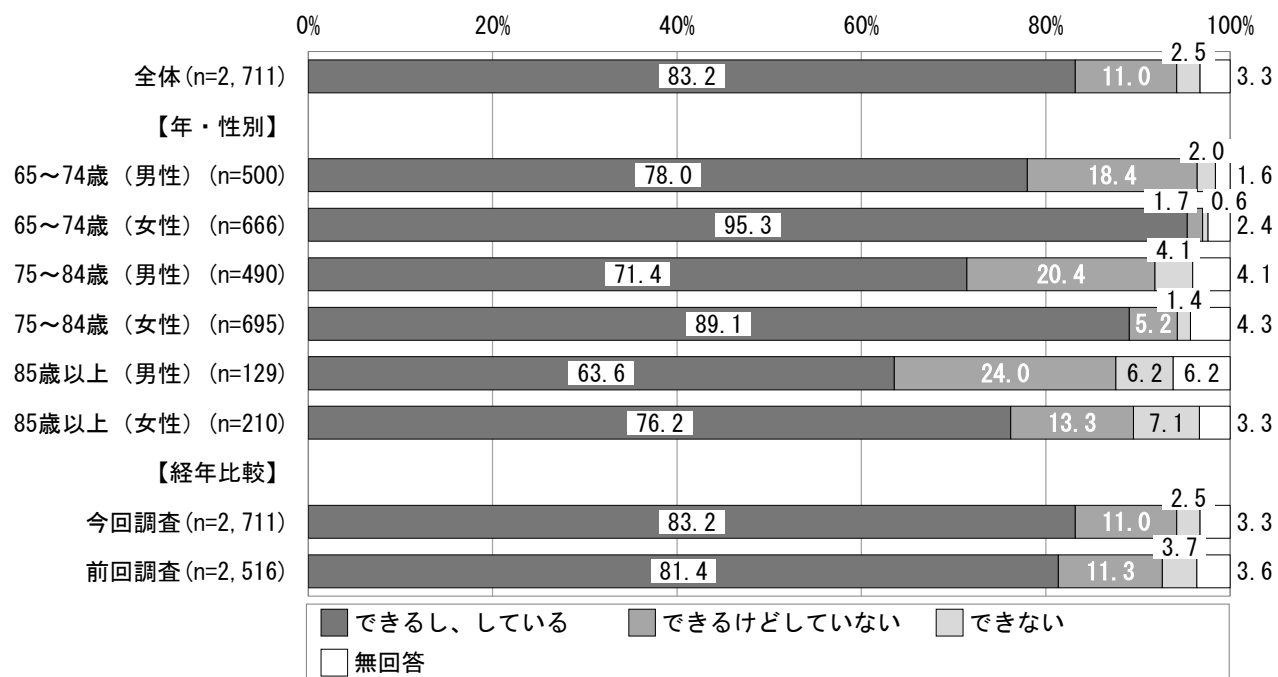
問 4（7） 自分で請求書の支払いをしていますか

年・性別にみると、いずれの年齢層でも女性のほうが男性よりも、請求書の支払いをしている割合が高くなっている。



問 4（8） 自分で預貯金のおし入れをしていますか

年・性別にみると、いずれの年齢層でも女性のほうが男性よりも、預貯金のおし入れをしている割合が高くなっている。



(3)趣味・生きがい

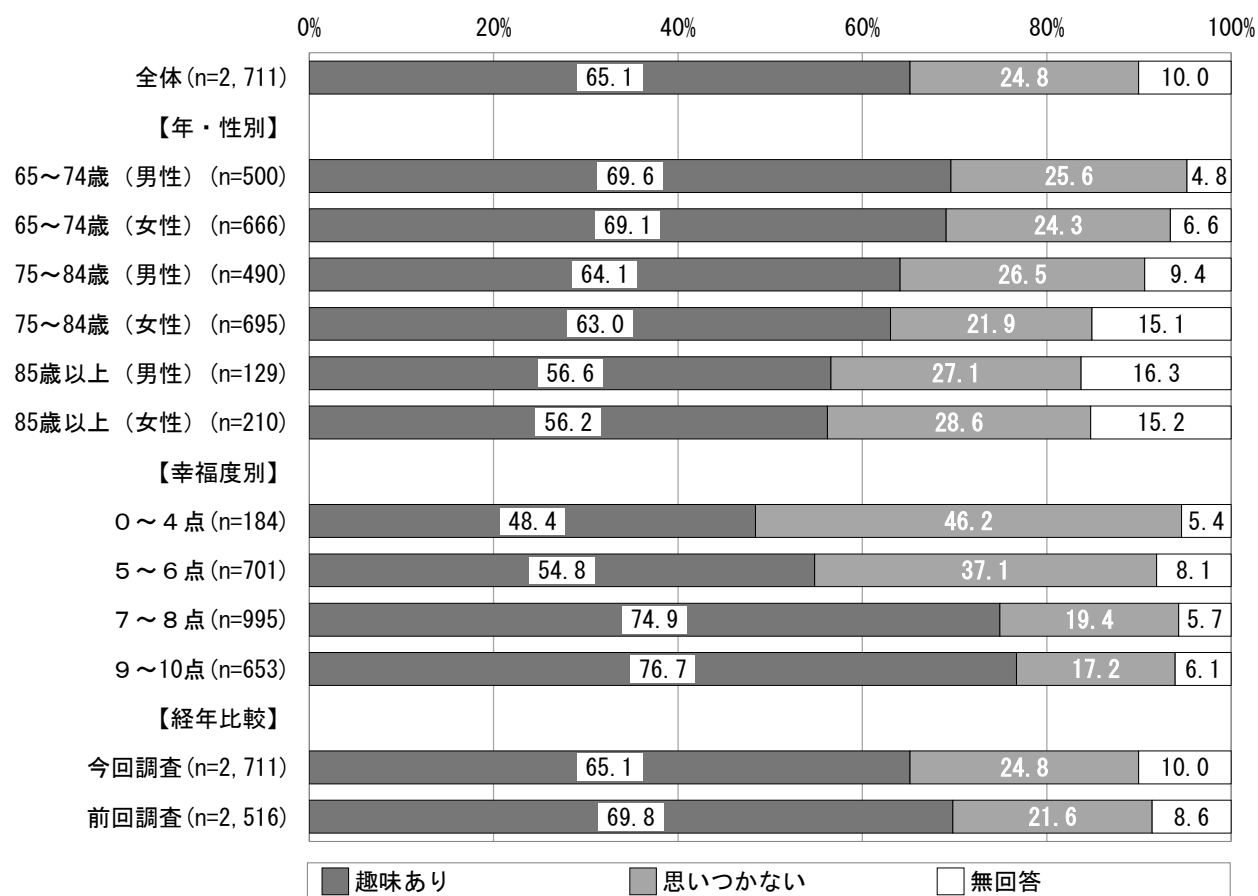
問 4 (10) 趣味はありますか

全体では、65.1%が趣味を持っている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ趣味を持つ割合は減少している。性別による大きな傾向の違いはみられない。

幸福度別にみると、幸福度7点以上はいずれも趣味を持つ割合が7割を超えており、趣味は個人の幸福感と相関があることもうかがえる。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。

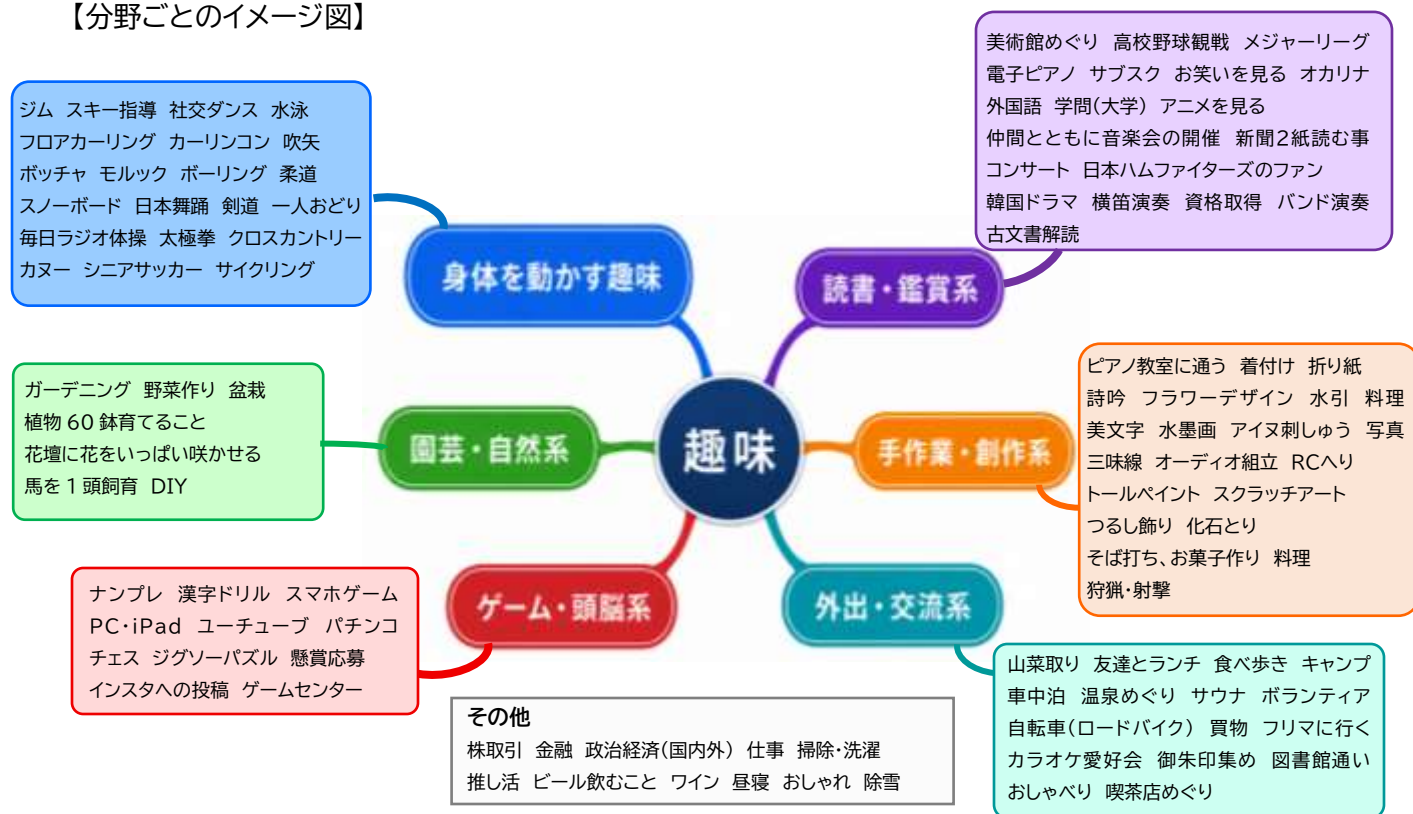


趣味の内容をみると、全体では「スポーツ・運動」が最も多くなっている。

(%)	スポーツ・運動	読書	ゴルフ（スポーツ・運動から抽出）	手芸・編み物	音楽鑑賞・演奏	映画・テレビ鑑賞	カラオケ・歌	家庭菜園・野菜作り	旅行・ドライブ	園芸・花の手入れ	囲碁・将棋・麻雀	パズル・ゲーム	絵画・書道・工芸	釣り	ダンス・舞踊（スポーツ・運動から抽出）	パソコン・インターネット	料理・食事	その他
全体 (n=1,665)	34.8	17.4	12.6	12.5	9.2	8.2	8.0	7.8	7.3	6.7	6.1	5.6	4.7	3.9	2.9	2.3	2.3	11.5
【年・性別】																		
65～74歳（男性） (n=329)	42.2	10.3	20.1	0.3	10.9	6.1	4.6	8.5	12.8	2.7	4.0	2.4	3.0	11.6	0.3	3.6	0.6	15.2
65～74歳（女性） (n=428)	27.1	25.5	3.5	20.8	9.6	13.1	3.3	5.1	10.5	7.9	2.6	8.9	4.2	0.0	2.8	0.9	3.0	9.3
75～84歳（男性） (n=295)	48.8	9.5	27.5	0.3	5.8	6.8	8.8	11.5	7.5	2.0	12.2	3.1	3.4	8.5	1.0	4.7	0.3	12.5
75～84歳（女性） (n=416)	31.3	21.9	7.2	22.1	9.4	6.5	12.3	7.2	1.7	10.6	5.5	6.3	7.5	0.2	6.0	0.7	4.8	9.6
85歳以上（男性） (n=71)	36.6	9.9	16.9	0.0	11.3	8.5	8.5	8.5	2.8	2.8	18.3	2.8	2.8	0.0	2.8	4.2	0.0	15.5
85歳以上（女性） (n=111)	18.9	14.4	4.5	21.6	9.0	4.5	19.8	6.3	1.8	13.5	4.5	9.0	5.4	0.9	4.5	0.9	2.7	12.6

※趣味カテゴリは10件以上の回答をもとに分類（10件未満はその他）

【分野ごとのイメージ図】



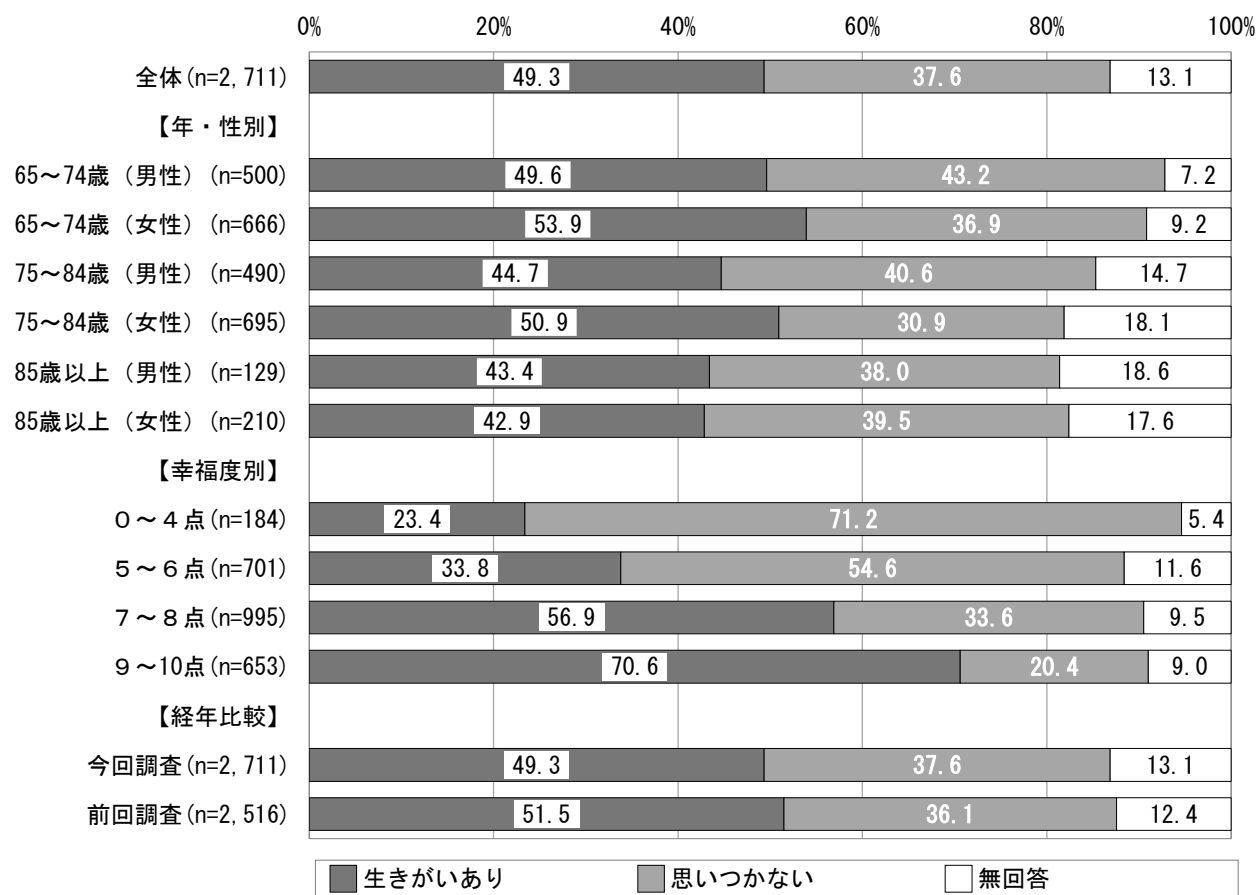
問 4 (11) 生きがいがありますか

全体では、49.3%が生きがいを持っている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ生きがいを持つ割合は減少している。65～74 歳、75～84 歳においては女性のほうが男性よりも生きがいを持つ割合が高くなっている。

幸福度別にみると、幸福度が高くなるほど、生きがいを持つ割合は高くなっている。生きがいは個人の幸福感と相関があることもうかがえる。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。

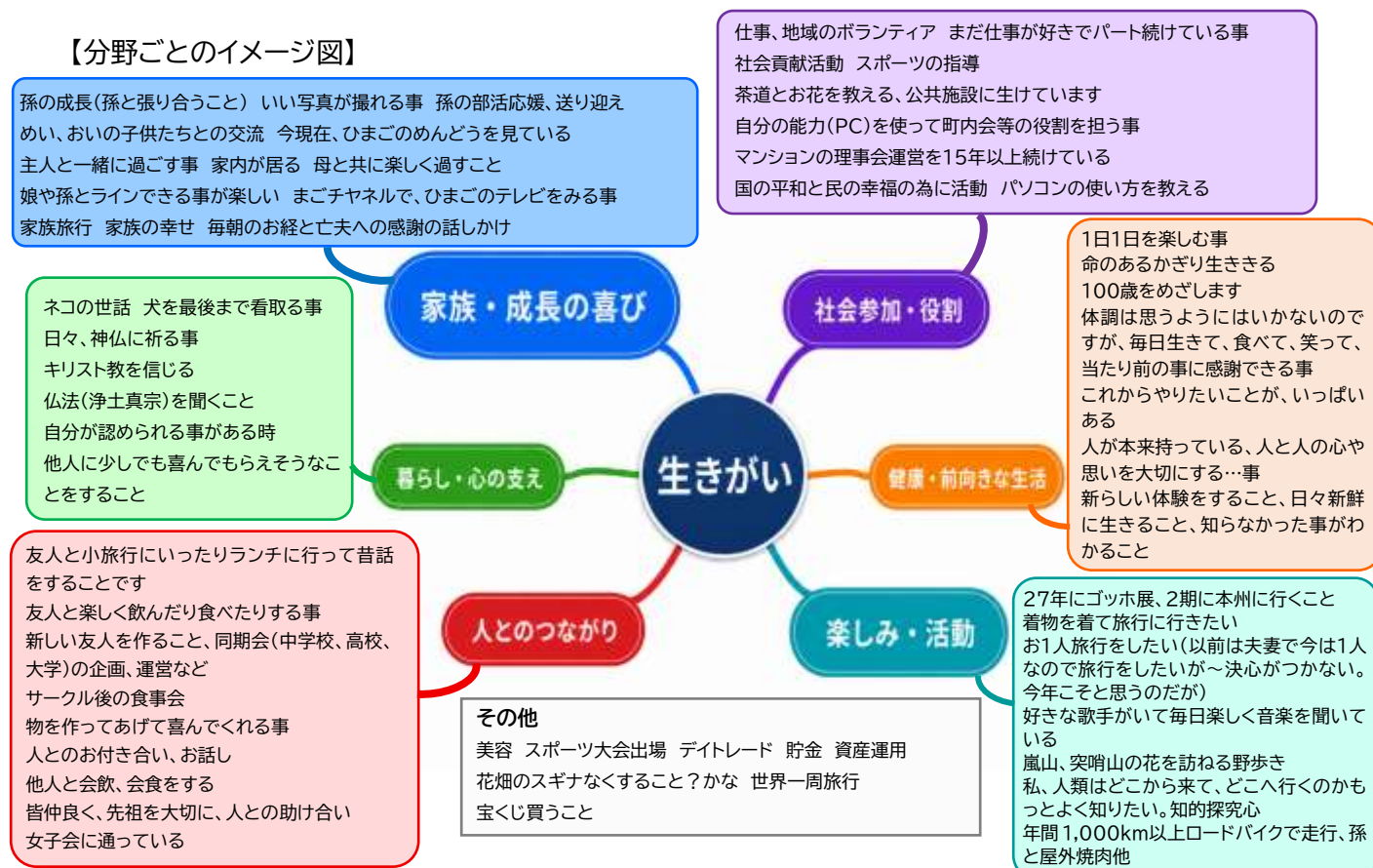


生きがいの内容をみると、全体では「孫・子供の成長を見守る」が最も多くなっている。

(%)	孫・子供の成長を見守る	仕事・社会活動への参加	家族との時間	健康維持・長寿を目指す	友人・知人との交流	旅行・外出を楽しむ	趣味・習い事を楽しむ	家庭菜園・野菜作り	ペット・動物の世話	信仰・宗教	その他
全体 (n=1,198)	31.6	10.6	9.4	8.4	8.1	7.8	5.5	4.3	2.3	0.9	31.1
【年・性別】											
65～74歳（男性） (n=215)	25.6	17.7	11.2	5.6	4.7	11.2	10.2	2.3	0.5	0.9	28.8
65～74歳（女性） (n=328)	39.3	12.2	11.0	7.0	9.5	11.6	2.7	2.4	4.3	0.9	25.3
75～84歳（男性） (n=188)	23.4	9.6	7.4	6.9	4.3	4.3	5.3	5.3	0.0	0.0	41.0
75～84歳（女性） (n=327)	35.5	6.4	8.9	11.9	11.9	5.8	6.1	5.5	2.4	1.5	29.7
85歳以上（男性） (n=46)	15.2	8.7	6.5	8.7	4.3	0.0	8.7	4.3	0.0	0.0	50.0
85歳以上（女性） (n=83)	27.7	3.6	8.4	12.0	8.4	4.8	1.2	7.2	4.8	1.2	33.7

※生きがいカテゴリは10件以上の回答をもとに分類（10件未満はその他）

【分野ごとのイメージ図】



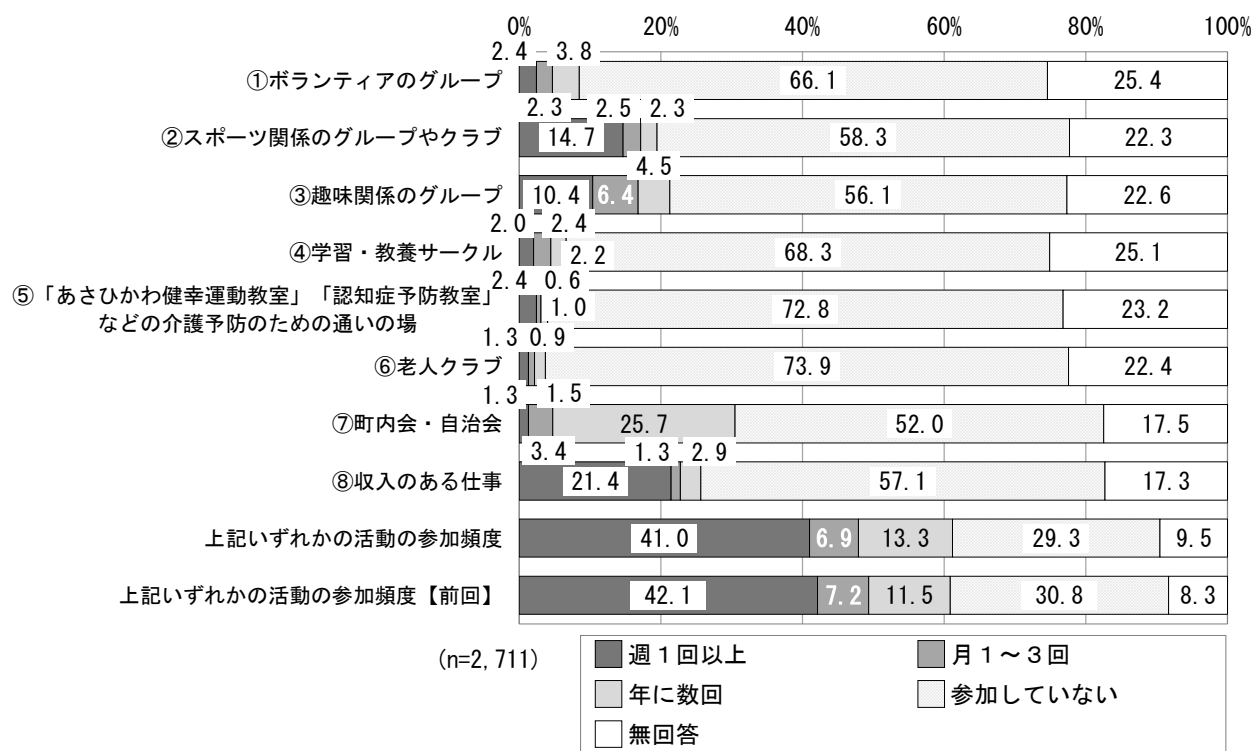
6 地域での活動について

問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

- ①ボランティアのグループ
- ②スポーツ関係のグループやクラブ
- ③趣味関係のグループ
- ④学習・教養サークル
- ⑤「あさひかわ健幸運動教室」「認知症予防教室」などの介護予防のための通いの場
- ⑥老人クラブ
- ⑦町内会・自治会
- ⑧収入のある仕事

地域での活動に関するそれぞれの設問について、「週1回以上」の割合をみると、＜⑧収入のある仕事＞（21.4%）、＜②スポーツ関係のグループやクラブ＞（14.7%）、＜③趣味関係のグループ＞（10.4%）で高くなっている。また、①～⑧のいずれかに参加している頻度は、「週1回以上」が41.0%となっている。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。



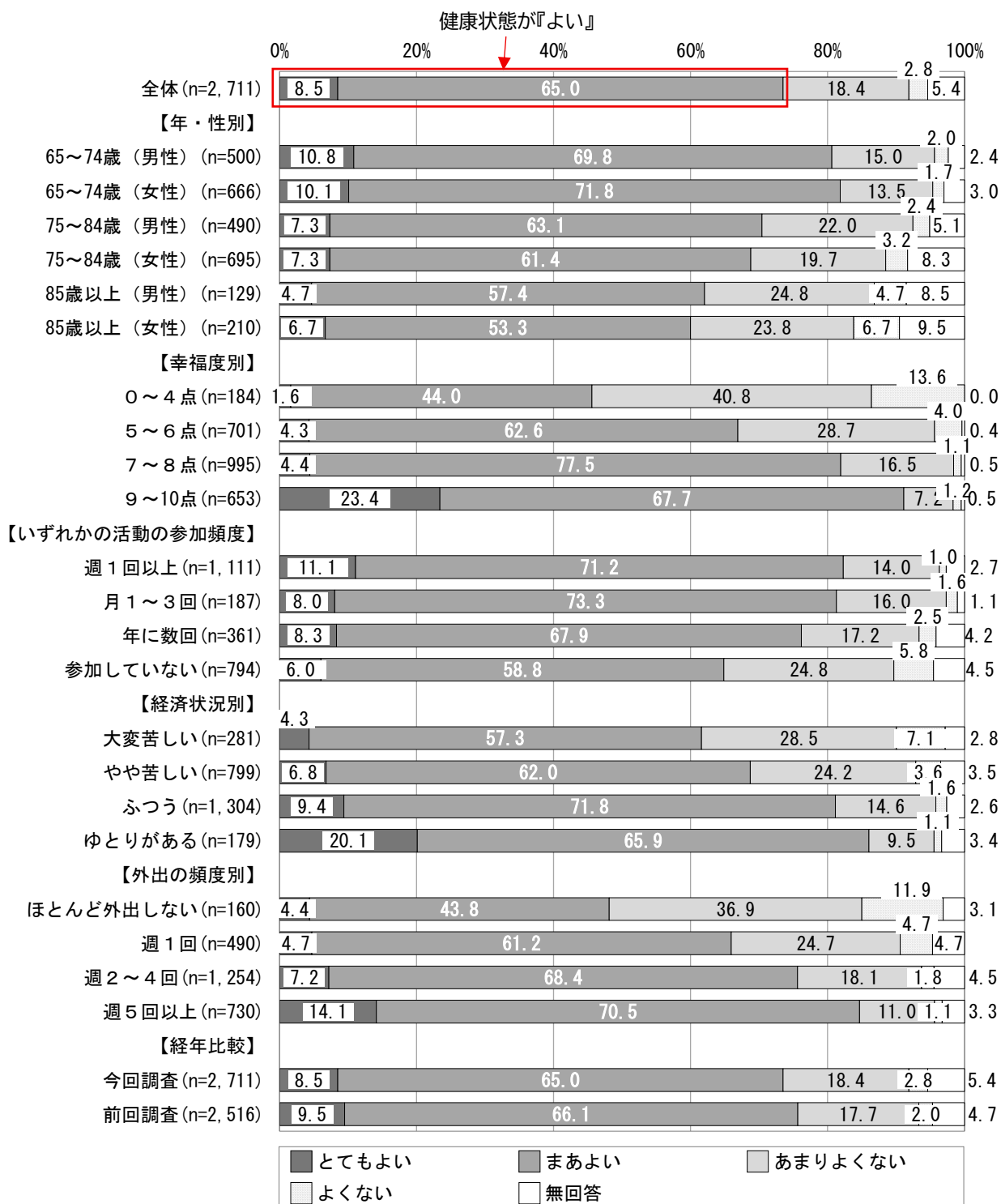
7 健康について

(1)健康状態

問 8 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

全体では、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』は 73.5%となっている。

以下のグラフのクロス集計の各要素は、いずれも健康状態との相関がみられる。



(2)幸福度

問 8 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか ※0～10 点で回答

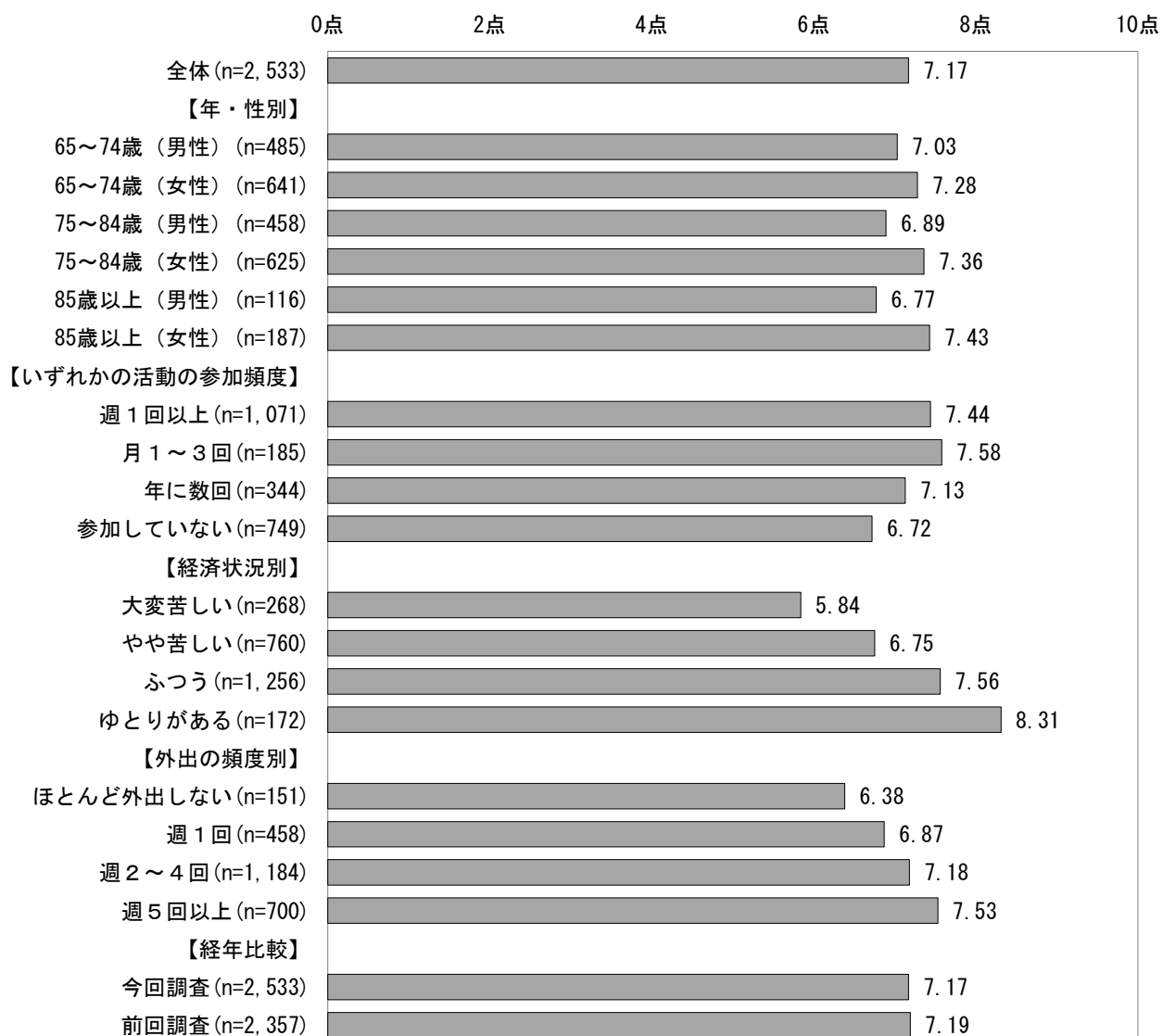
以下は属性別の平均点を示している。全体の平均点は 7.17 点である。

年・性別にみると、いずれの年齢層においても男性のほうが女性よりも平均点が低くなっている。

地域活動（いずれかの活動）への参加頻度別では、週 1 回以上と月 1～3 回の平均点は大きな差はみられないが、年に数回、参加していないと頻度がさがるにつれ平均点は低くなっている。

経済状況別では、経済状況がよいほど平均点は高くなっている。外出頻度別では、外出頻度が高いほど平均点は高くなっている。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。



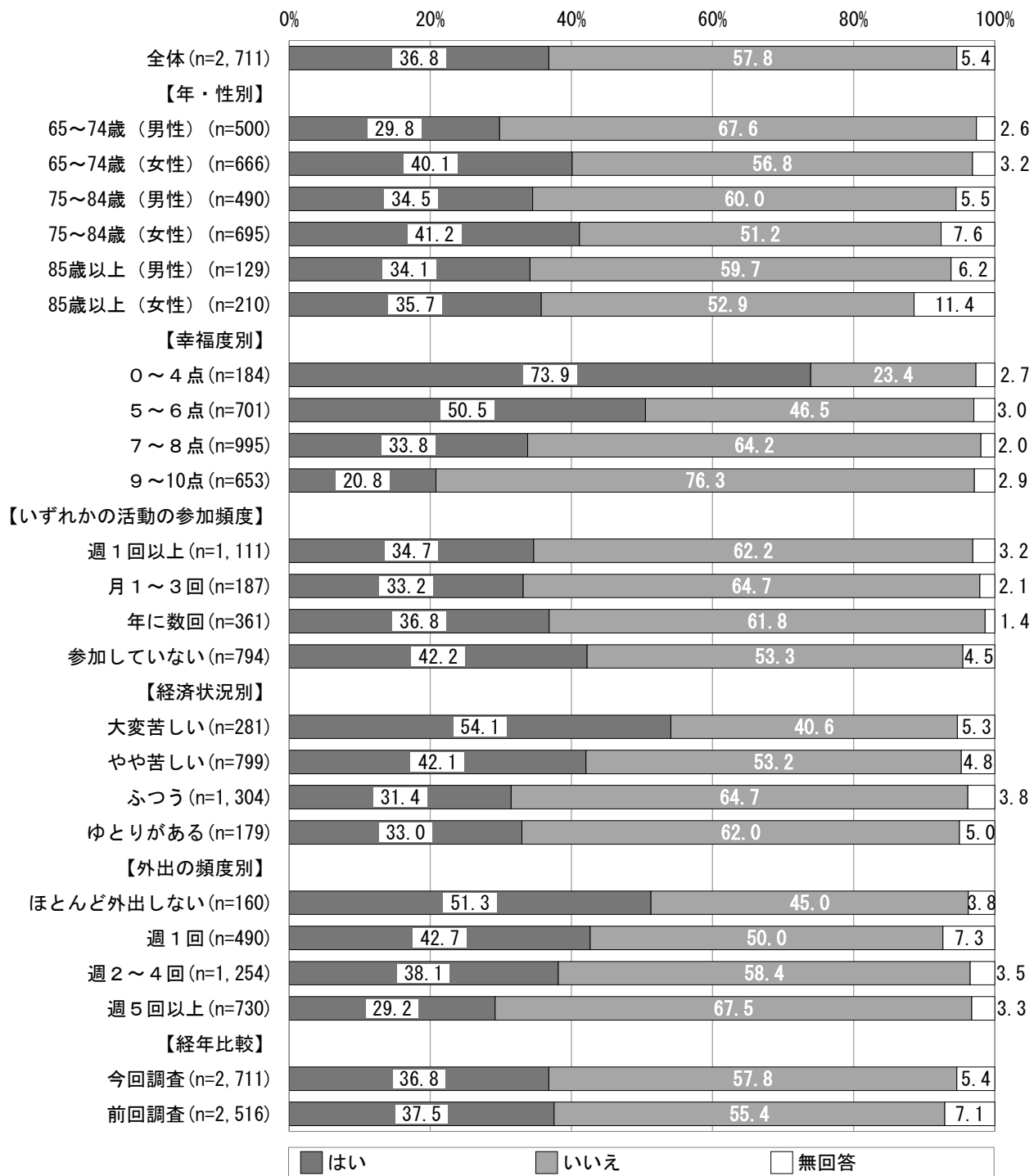
(3)鬱傾向

問 8 (3) この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

全体では、「はい」が 36.8%となっている。

年・性別にみると、いずれの年齢層も女性のほうが男性よりも鬱傾向がみられる。

その他、以下のグラフのクロス集計の各要素は、いずれも鬱傾向との相関がみられる。



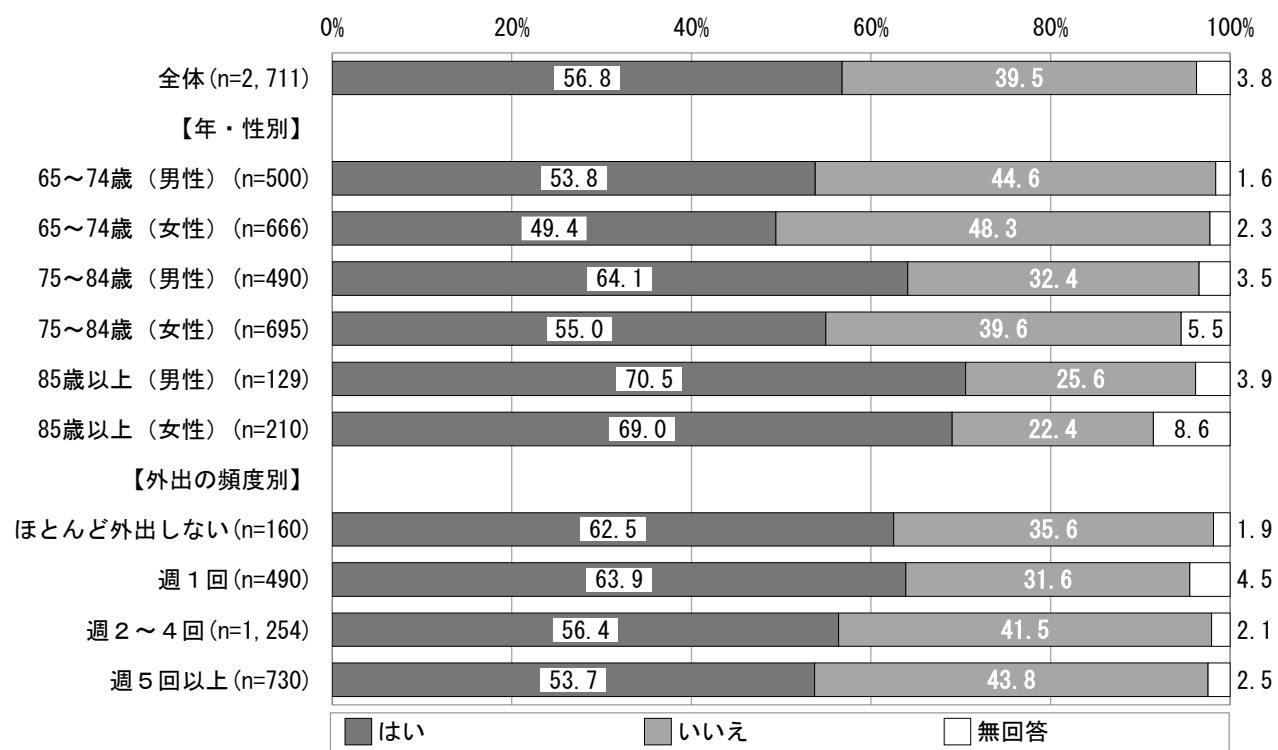
(4)聴力

問 8 (7) 加齢により聴力が衰えたと感じますか

全体では、56.8%が聴力の衰えを感じている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ「はい」は増加している。いずれの年齢層も男性のほうが女性よりも「はい」が高くなっている。

外出頻度別にみると、外出頻度が低いほど聴力の衰えを感じる割合が高くなっており、聴力が衰えると外出を控えている状況がうかがえる。



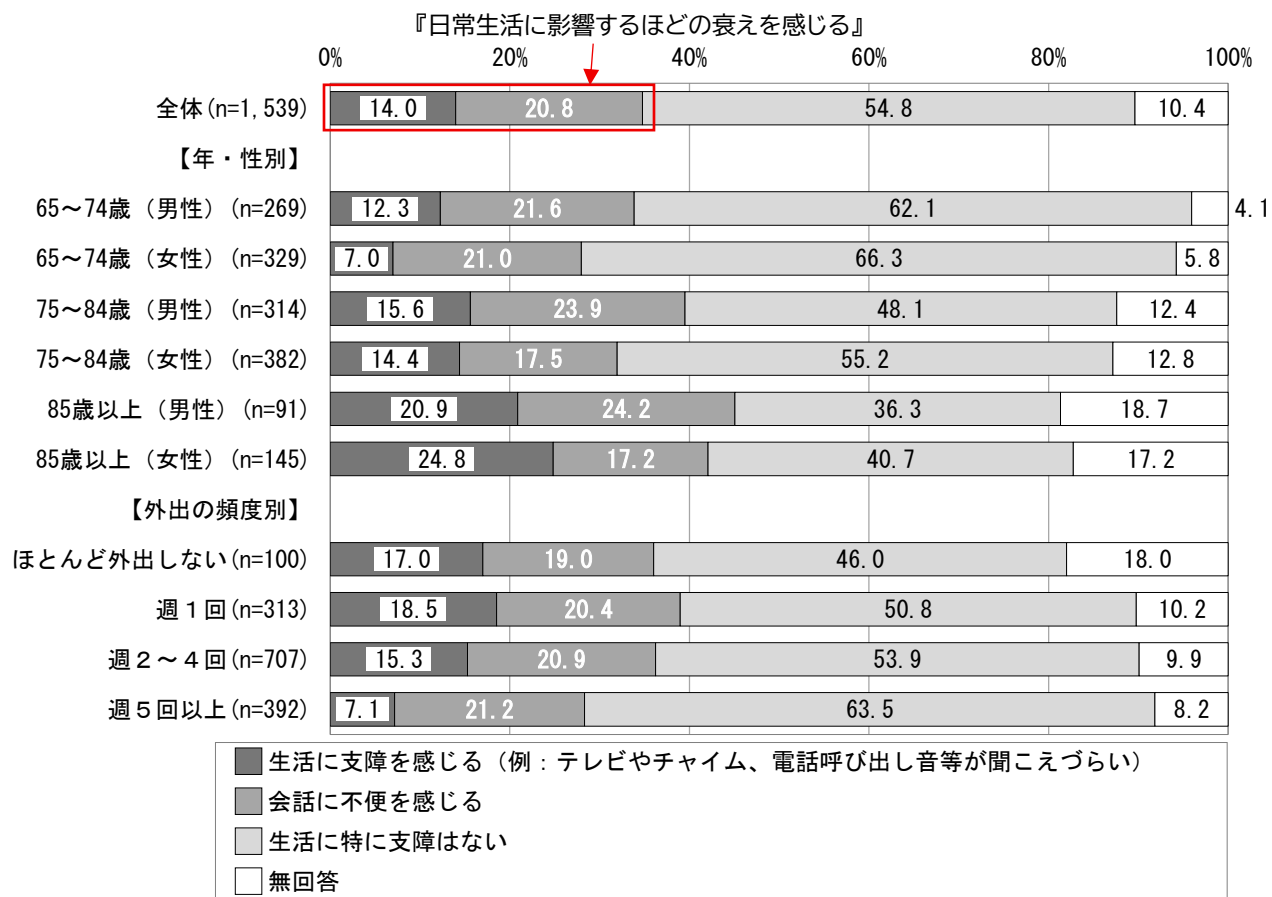
問 8 (7) ① 聴力の衰えをどの程度感じていますか

※問 8 (7) で「はい」と回答した方に質問

全体では、「生活に支障を感じる」と「会話に不便を感じる」を合わせた『日常生活に影響するほどの衰えを感じる』は 34.8% となっている。

年・性別にみると、いずれの年齢層でも男性のほうが女性よりも『日常生活に影響するほどの衰えを感じる』が高くなっている。

外出頻度別では、週 5 日以上外出をしている人は『日常生活に影響するほどの衰えを感じる』は低くなっている。こちらでも、聴力が衰えると外出を控えている状況がうかがえる。



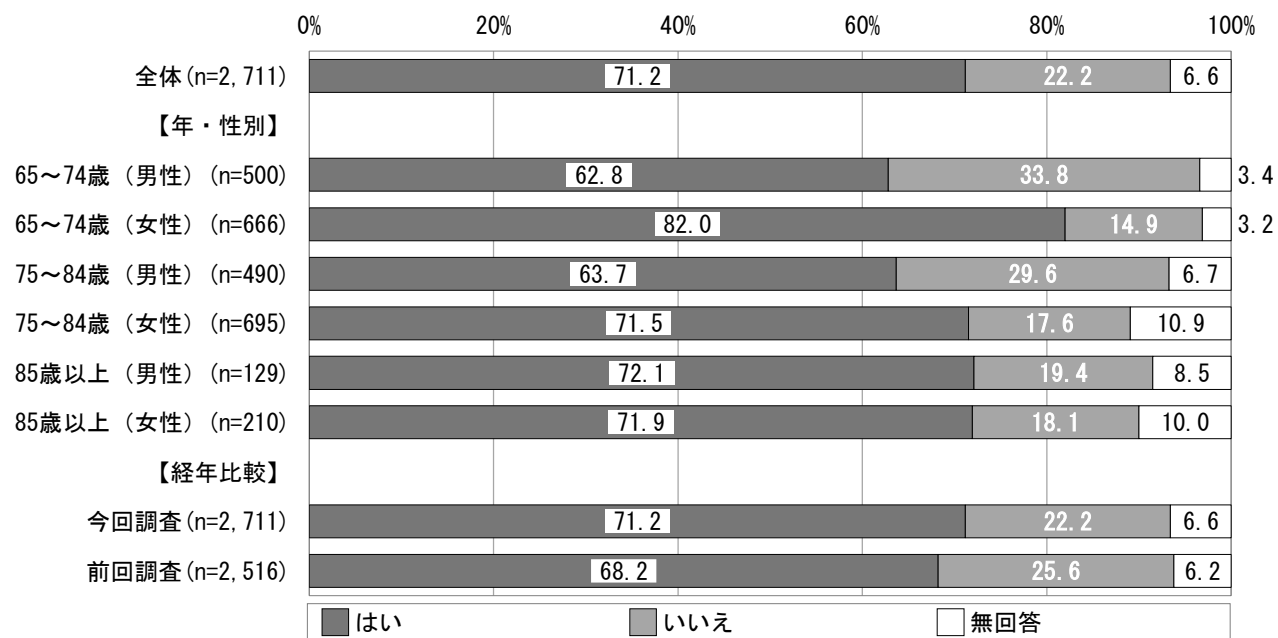
8 地域包括支援センターについて

問 9 (1) 高齢者の相談窓口である地域包括支援センターを知っていますか

全体では、認知度は 71.2%となっている。

年・性別にみると、65～74 歳の女性の認知度が 82.0%と最も高くなっている。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。



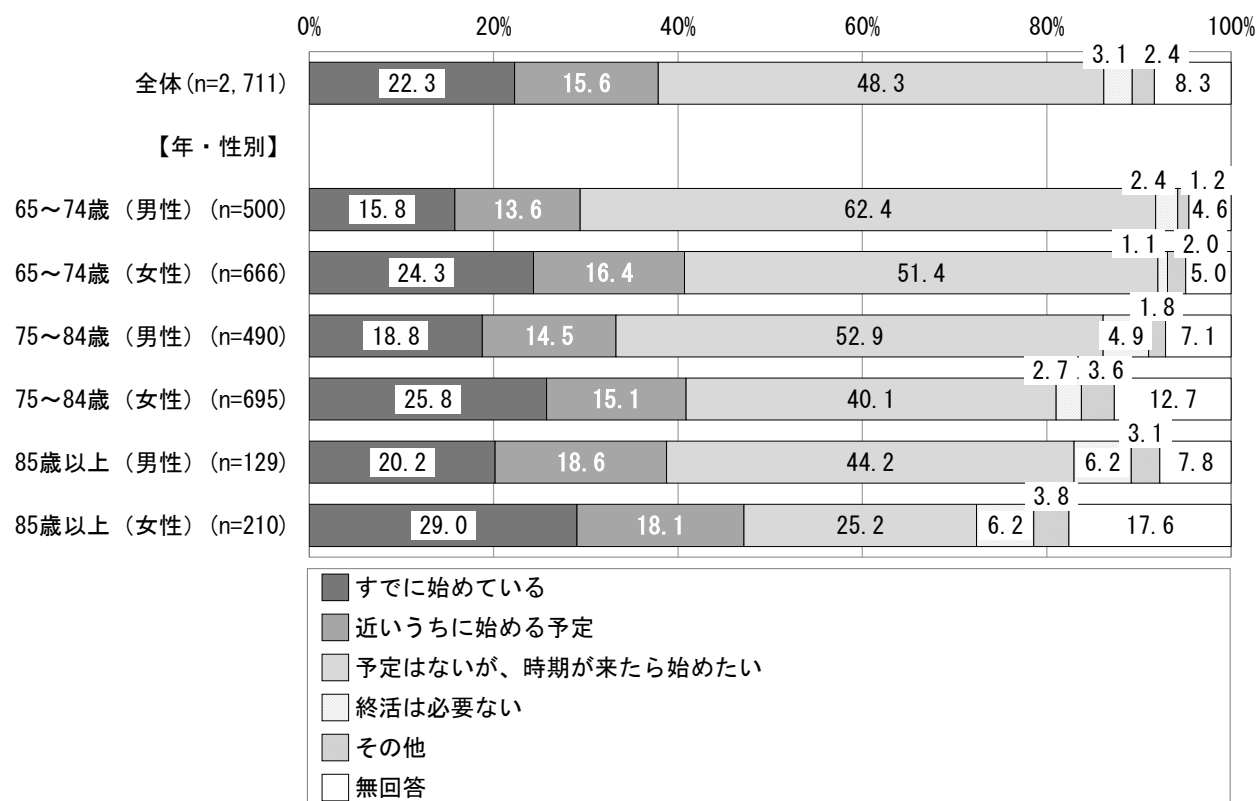
9 終活について

(1)終活の取り組み状況

問 11 (1) 終活の取り組みをしていますか

全体では、「すでに始めている」が 22.3%、「近いうちに始める予定」が 15.6%となっている。

年・性別にみると、いずれの年齢層も女性のほうが男性よりも「すでに始めている」が高くなっている。また、いずれの年齢層も男性のほうが女性よりも「予定はないが、時期が来たら始めたい」が高く、85 歳以上でも 44.2%となっている。



(2)最期を迎える場所

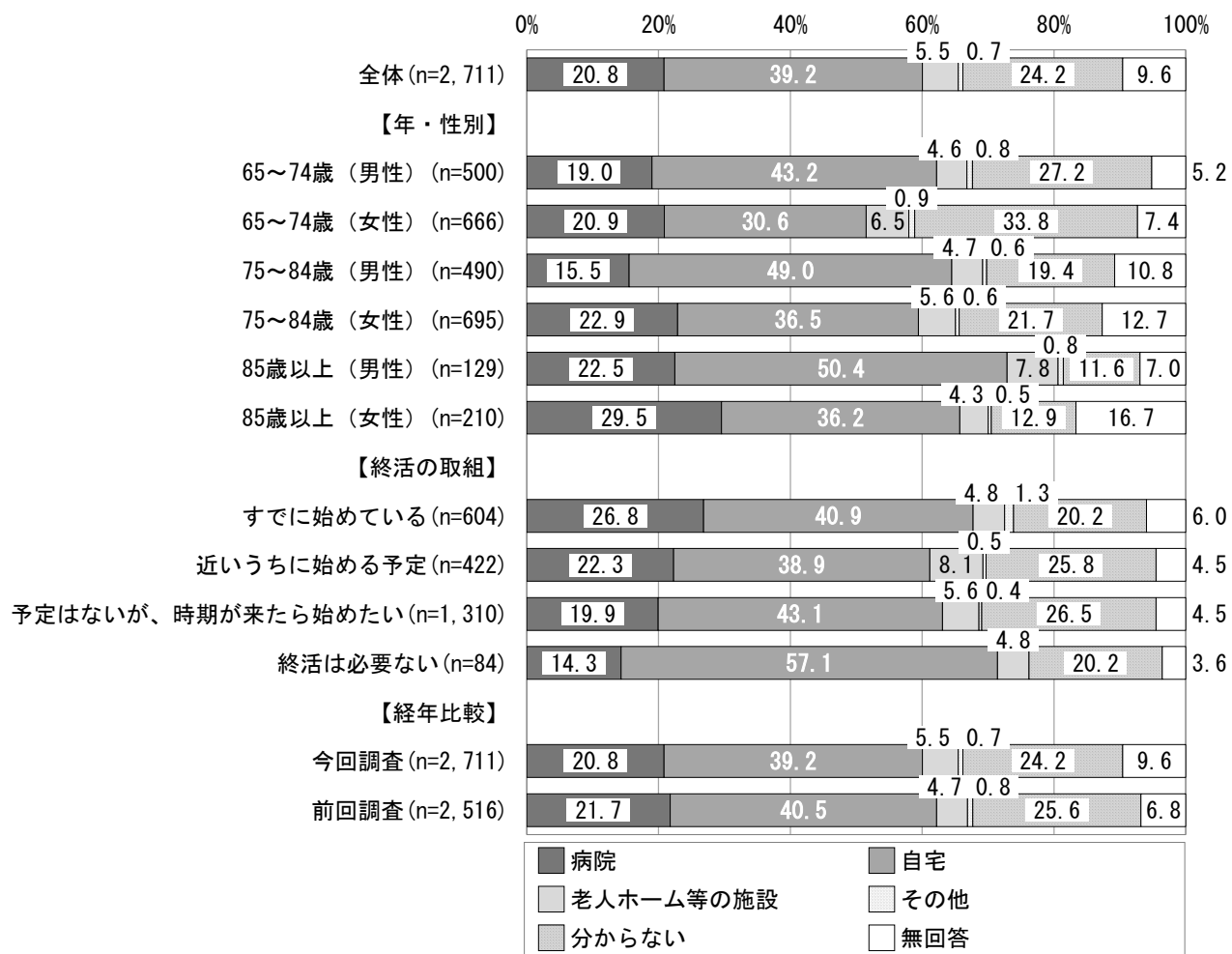
問 12 (1) 希望としては、どこで最期を迎えたいとお考えですか

全体では、「自宅」が39.2%と最も高く、「病院」が20.8%となっている。

年・性別にみると、いずれの年齢層も男性のほうが女性よりも「自宅」が高く、女性のほうが男性よりも「病院」が高くなっている。

終活の取り組み状況別にみると、すでに始めている人は他の取組状況よりも「病院」が26.8%と最も高く、終活は必要ない人は他の取組状況よりも「自宅」が57.1%と最も高くなっている。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。



10 認知症について

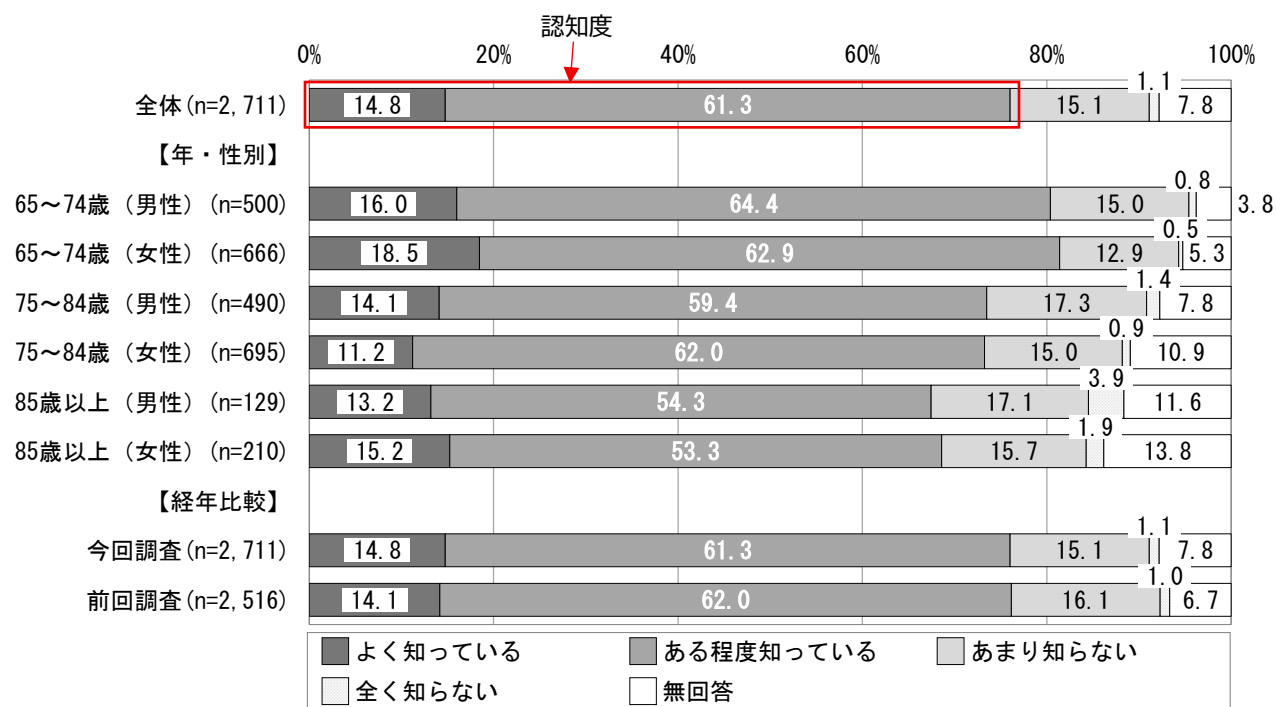
(1) 認知症に関する知識

問 14 (1) 認知症について、どの程度知っていますか

全体では、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた認知度が 76.0%となっている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ認知度は減少しており、65～74 歳は約 8 割、75～84 歳は 7 割強、85 歳以上は 7 割弱となっている。性別による大きな傾向の違いはみられない。

経年比較では、大きな傾向の違いはみられない。

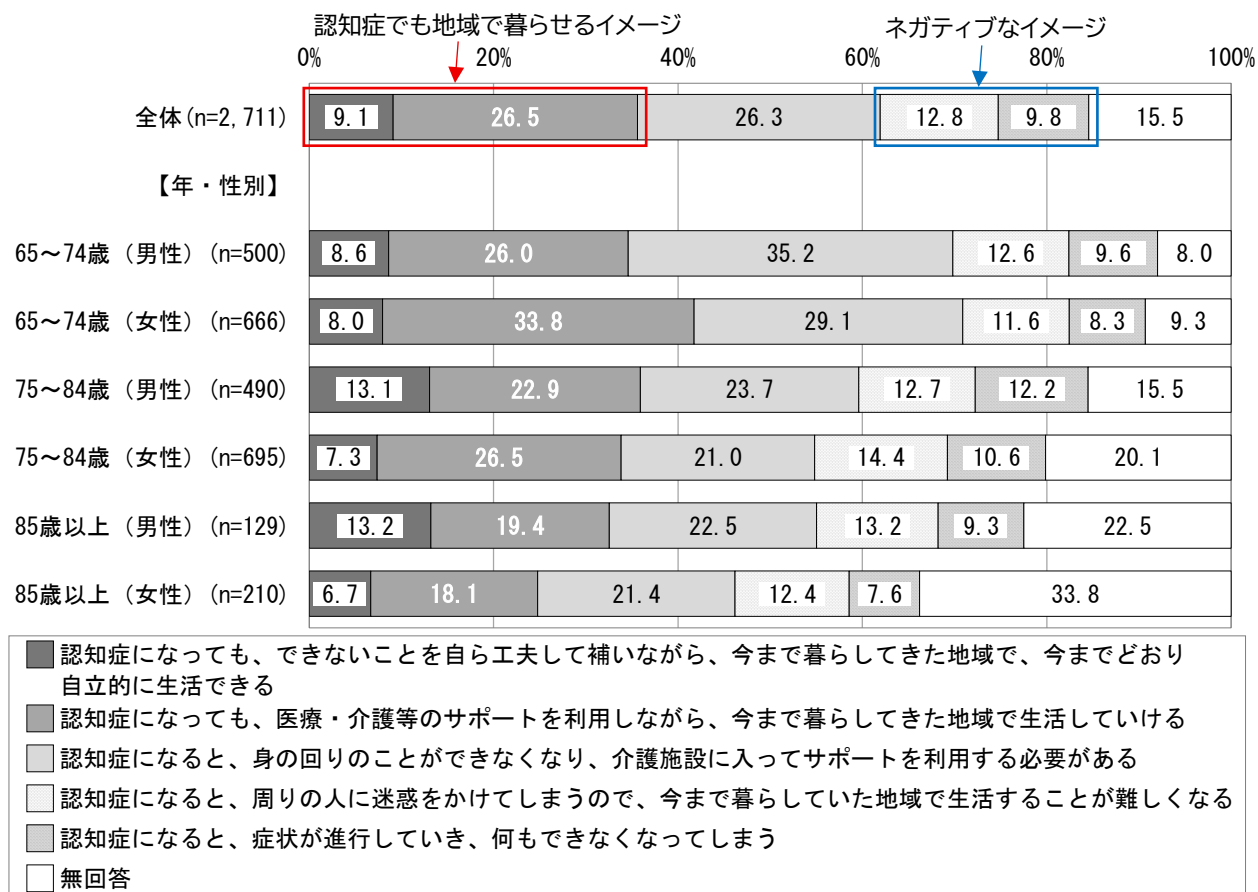


(2)認知症のイメージ

問 14 (2) 認知症について、どのようなイメージを持っていますか

全体では、『認知症でも地域で暮らせるイメージ』を持っている人が 35.6%、『ネガティブなイメージ』を持っている人が 22.6%となっている。

年・性別にみると、後ろ向きなイメージを持っているのは、75～84 歳が他の年齢層よりも高く、男性が 24.9%、女性が 25.0%となっている。



(3)認知症になったときの不安

問 14 (3) ① 不安に思うことは何ですか (いくつでも)

※問 14 (3) で「(自信や家族が認知症になったときの不安が) ある」と回答した方に質問

全体では、「介護のこと」が 81.6%と最も高く、「病気のこと」が 55.8%、「経済的なこと」が 52.6%と続いている。

「病気のこと」と「経済のこと」は、終活にすでに取り組んでいる人が最も低く、終活は必要ないという認識の人が最も高くなっている。終活に取り組むことで、認知症になったときの不安を低減できる可能性がうかがえます。

	(%)	介護 のこと	病気 のこと	経済 的な こと	家族 との 関係	地域 との 関係	その他	無 回 答
全体 (n=2, 251)		81.6	55.8	52.6	28.7	6.4	1.2	0.7
【経年比較】								
今回調査 (n=2, 251)		81.6	55.8	52.6	28.7	6.4	1.2	0.7
前回調査 (n=2, 102)		81.9	54.9	49.6	31.7	6.4	2.3	0.0
【終活の取り組み】								
すでに始めている (n=515)		82.3	53.8	50.7	26.6	10.1	1.4	0.8
近いうちに始める予定 (n=374)		83.7	54.5	52.9	30.5	6.1	1.9	0.5
予定はないが、時期が来たら始めたい (n=1, 147)		81.0	56.6	51.4	28.6	5.1	0.7	0.6
終活は必要ない (n=50)		76.0	70.0	68.0	24.0	8.0	0.0	0.0

11 スマートフォンの利用について

(1)スマートフォンの所有

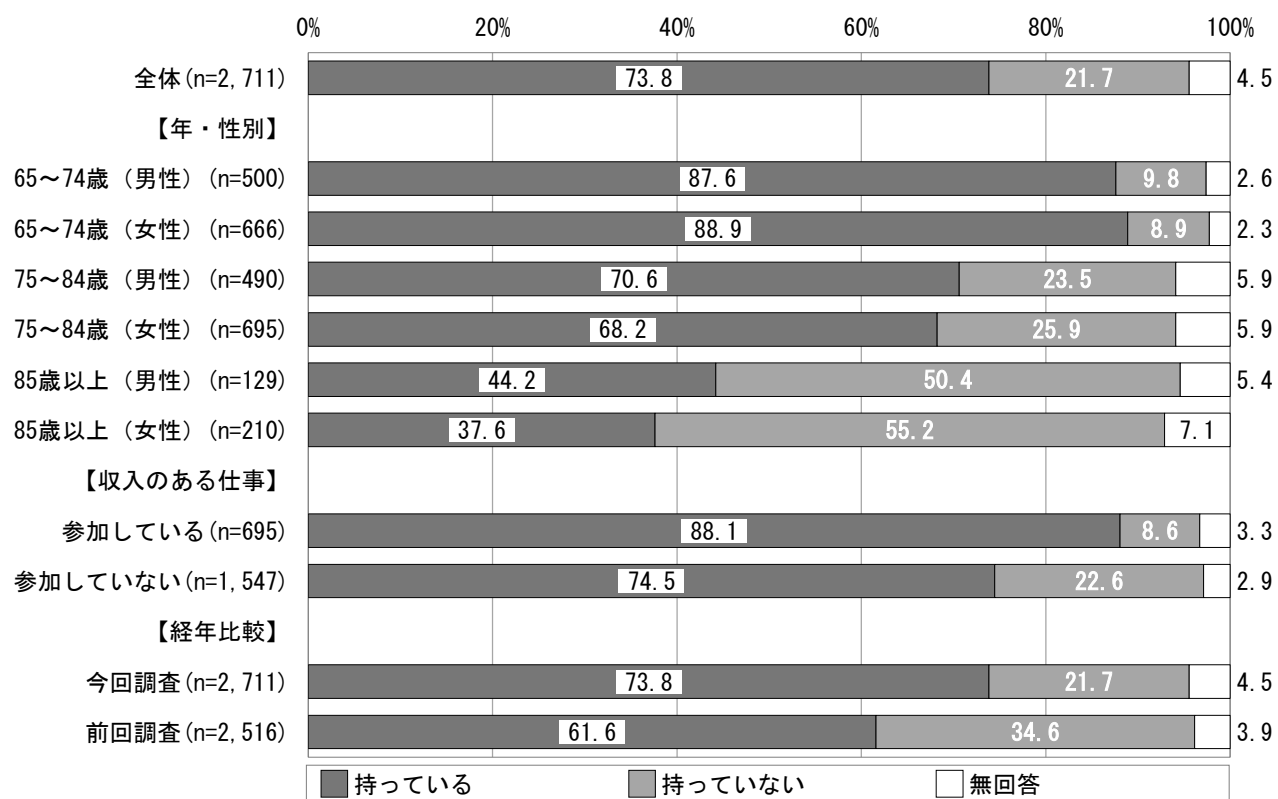
問 16 (1) スマートフォンを持っていますか

全体では、所有率が 73.8%となっている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ所有率に減少がみられる。85 歳以上において、男性のほうが女性よりも所有率が高くなっている。

また収入のある仕事を持っている場合の所有率が高く、88.1%となっている。

経年比較では、所有率に増加がみられ、前回調査よりも 12.2 ポイントの増加がみられる。



(2)スマートフォンの用途

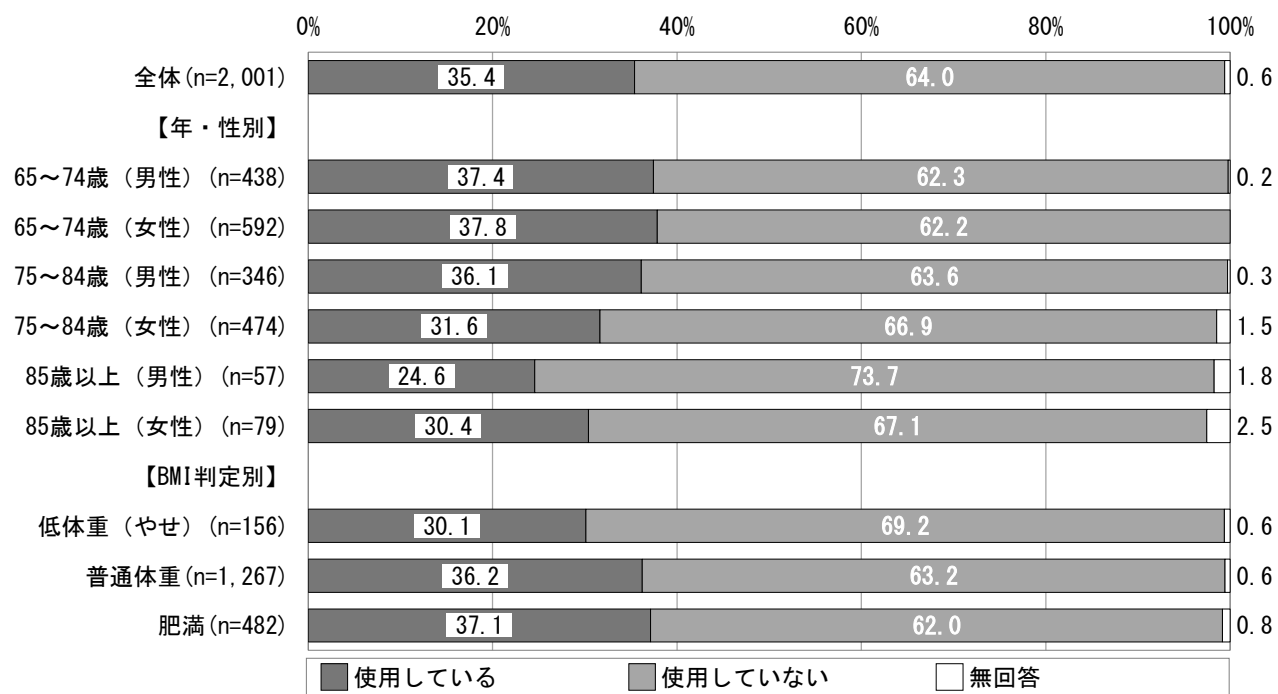
問 16 (1) ① スマートフォンを、健康管理（歩数・体重・食事・薬等の情報管理）のために使用していますか

※問 16 (1) で「持っている」と回答した方に質問

全体では、使用率が 35.4%となっている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ使用率に減少がみられるが、85 歳以上の男性を除き、おおむね 3 割を超えている。

BMI 判定別にみると、低体重（やせ）の人が他の判定区分よりも使用率が低くなっている。

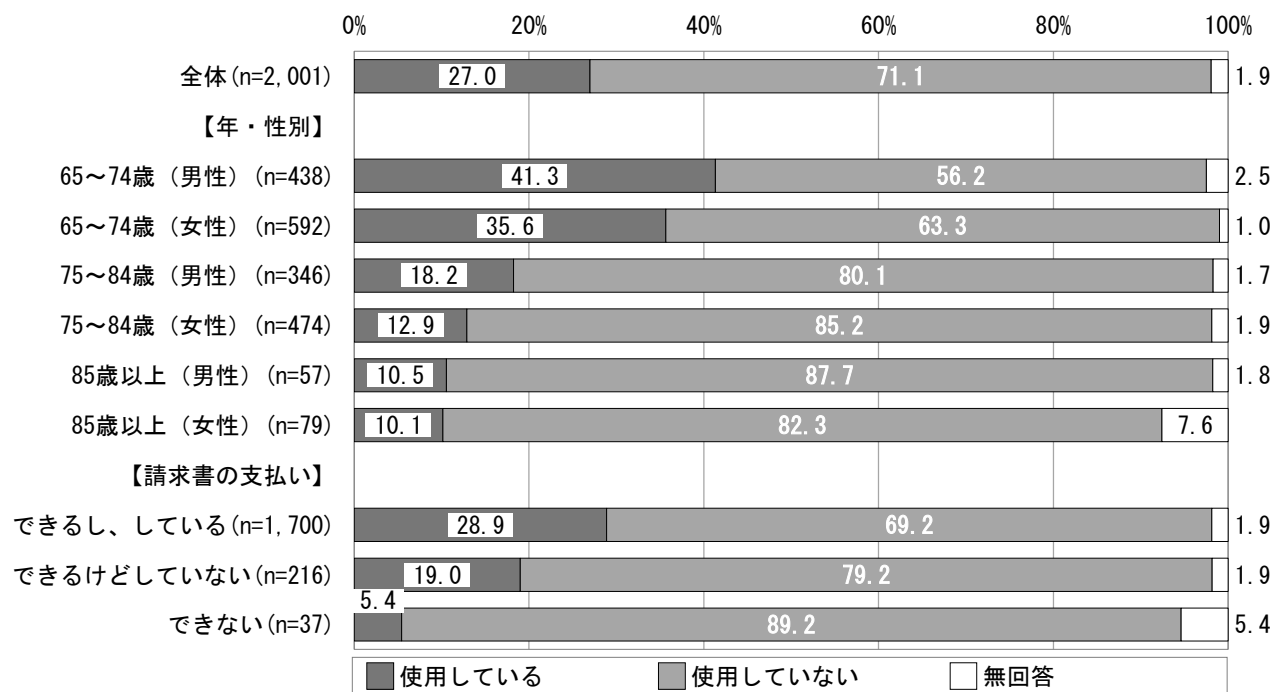


問 16 (1) ② スマートフォンを、キャッシュレス決済（外出先での買い物やネットショッピングでの料金を QR コード・バーコード・クレジット決済する）に使用していますか
 ※問 16 (1) で「持っている」と回答した方に質問

全体では、使用率が 27.0%となっている。

年・性別にみると、年齢があがるにつれ使用率に減少がみられる。65～74 歳、75～84 歳においては、男性のほうが女性よりも使用率が高くなっている。

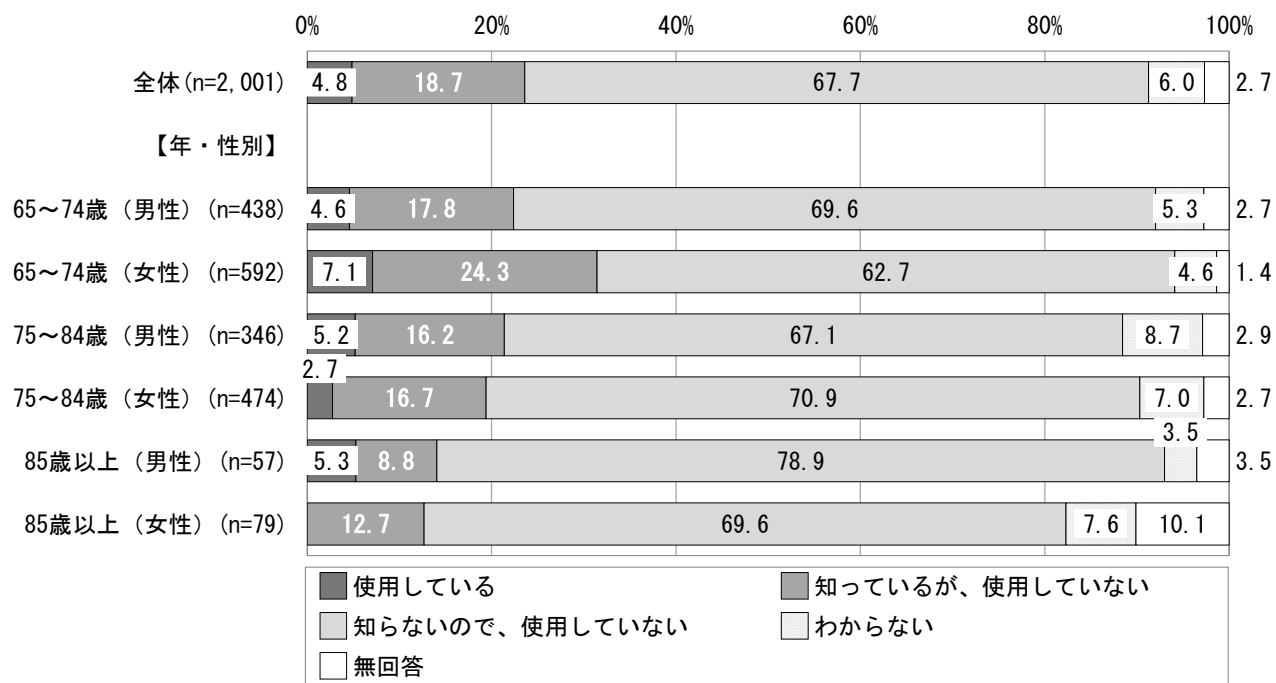
また、請求書の支払いをしている人のほうが使用率が高くなっている。



問 16（１）③ スマートフォンで、「あさひかわ健幸アプリ」を使用していますか
 ※問 16（１）で「持っている」と回答した方に質問

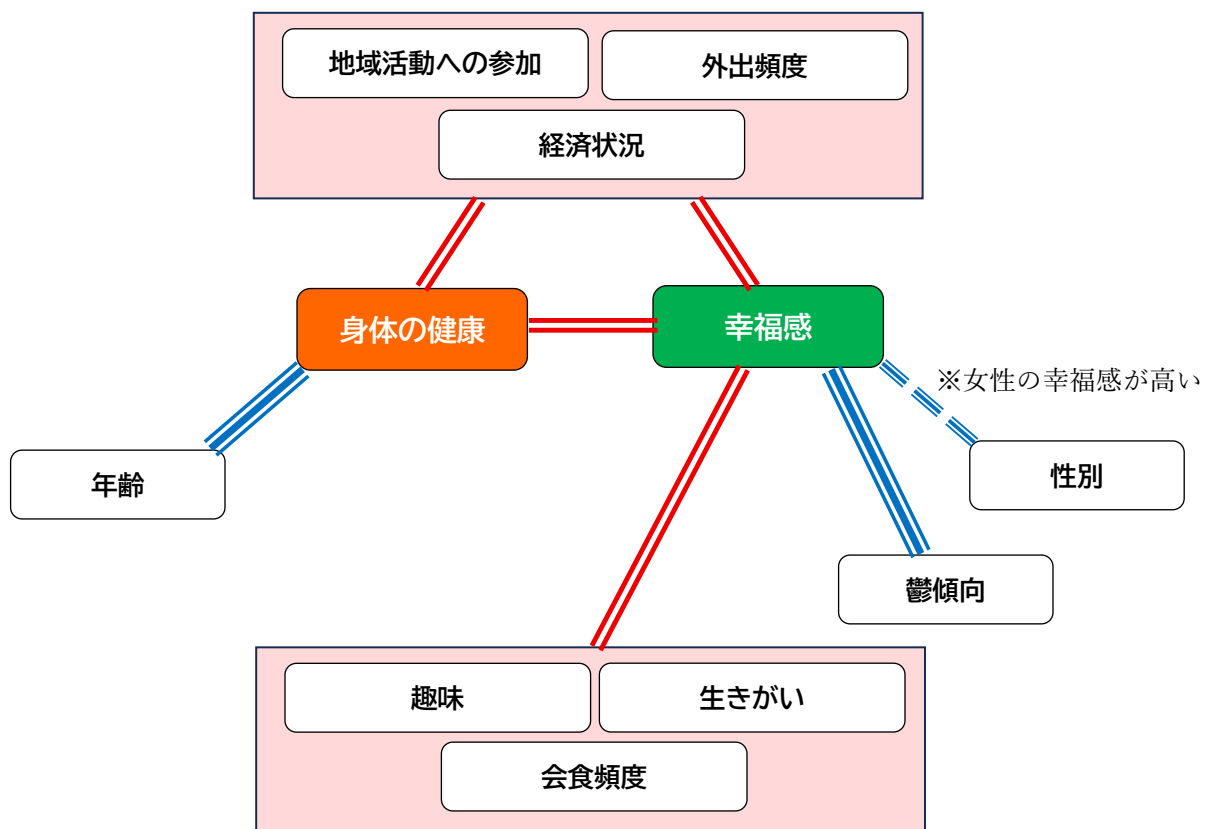
全体では、使用率が 4.8%、認知度（「使用している」と「知っているが、使用していない」の合計）は 23.6%となっている。

年・性別にみると、いずれの年齢層も男性は使用率が 5 %前後、女性は 65～74 歳の使用率が 7.1%と最も高くなっている。また認知度は、65～74 歳の女性が 31.4%と最も高くなっている。



12 ウェルビーイング

以下は、本調査を通じてみられた、身体・健康と幸福感に影響を大きく与える要素を図示したもの。
(二重線は、一方の値があがるに伴い、もう一方もあがっている相関関係のもの。三重線は、一方の値があがるに伴い、もう一方がさがっている相関関係のもの)



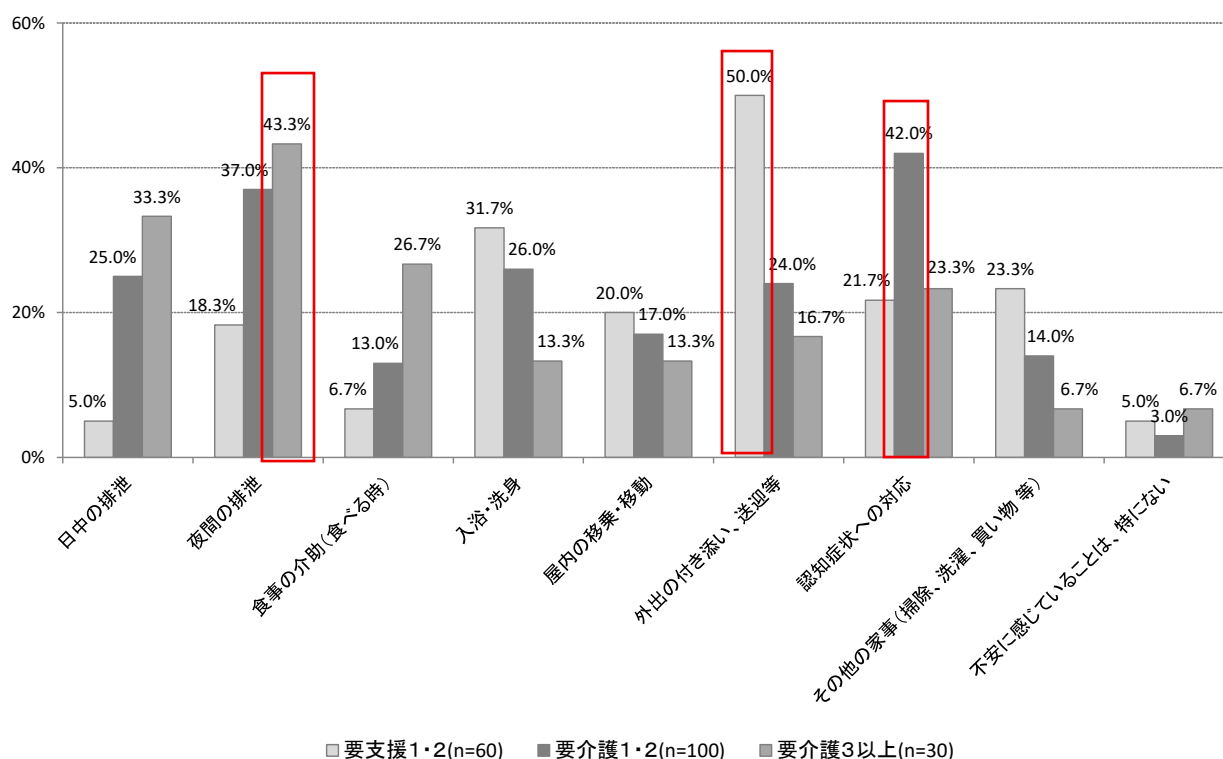
在宅介護実態調査【概要】

1 在宅限界点について

(1)介護者が不安を感じる介護

B問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、回答してください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

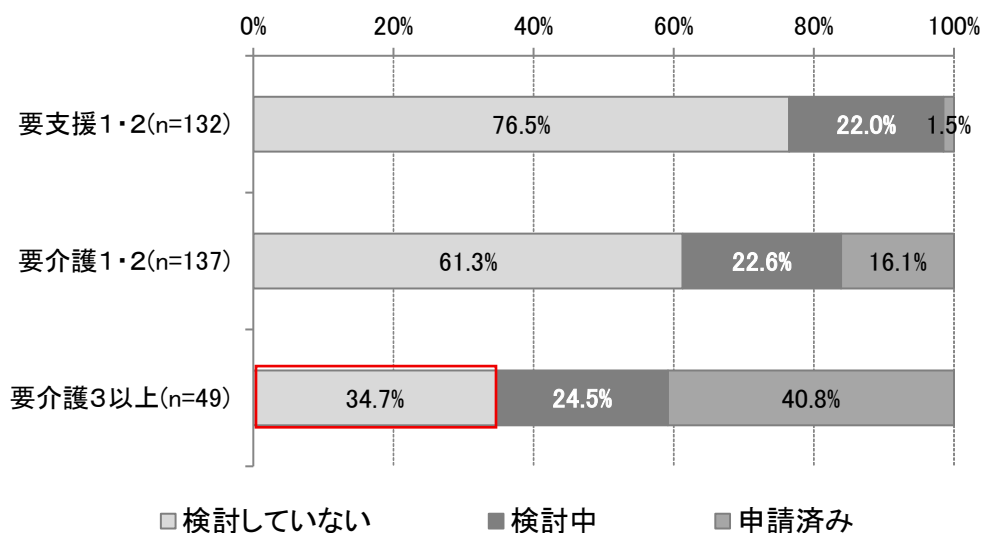
要支援1・2では移動への不安、要介護1・2では認知症状への不安が高くなっている。要介護3以上が排泄介助への不安が高いことと比べると、ADLが比較的高いことが影響していると考えられる。



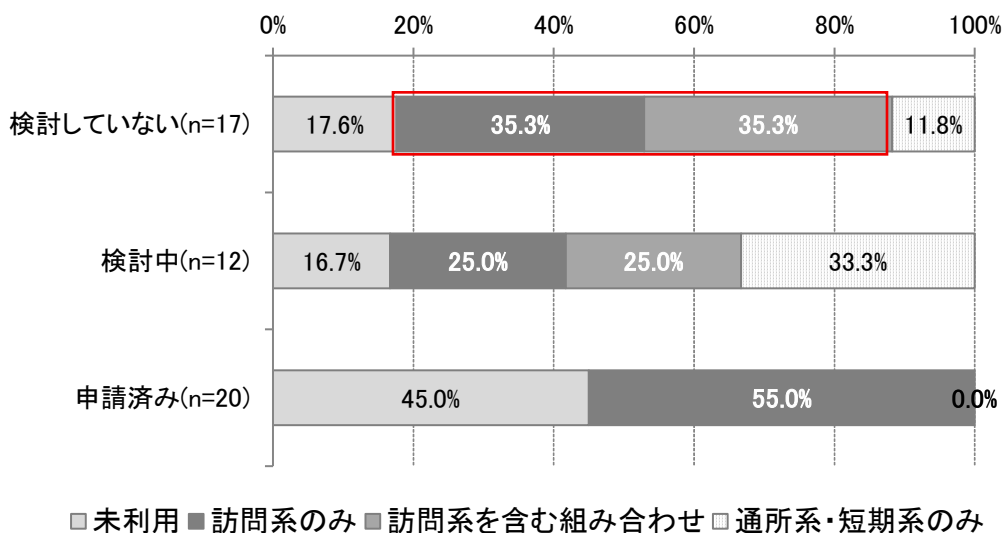
(2)施設等検討の状況

A問8 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、回答してください（1つを選択）

要介護3以上になると、在宅生活の継続を考えている（施設入所を検討していない）のは34.7%となっており、大半は施設の利用を考えている。



要介護3以上で在宅生活の継続を考えている（施設入所を検討していない）人は、訪問系または訪問系を含む組み合わせのサービス利用をしており、訪問系サービスが在宅限界点の向上に貢献している可能性がある。



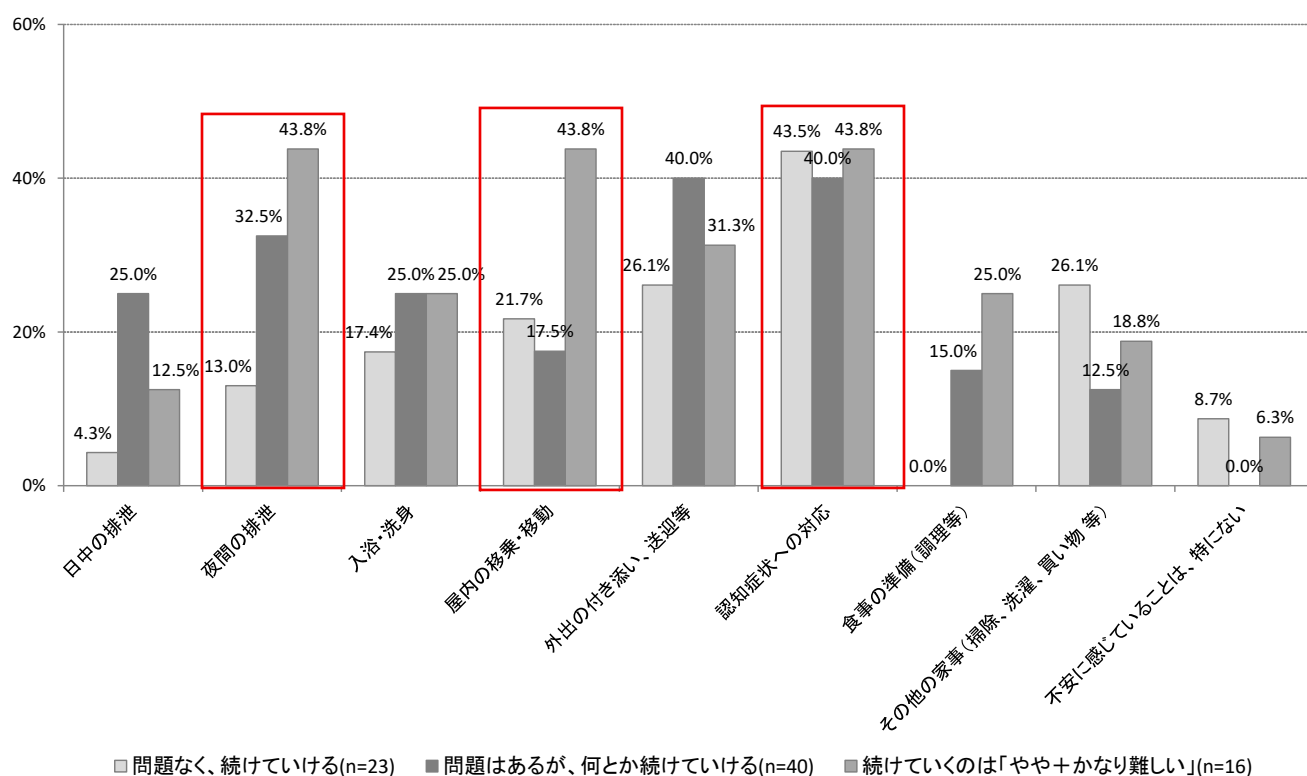
2 仕事と介護の両立について

(1)介護者が不安を感じる介護

B問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、回答してください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

就労の継続が難しいと考えている人は、継続可能と考える人よりも、排泄介助や室内 移動にかかる負担感が高い。

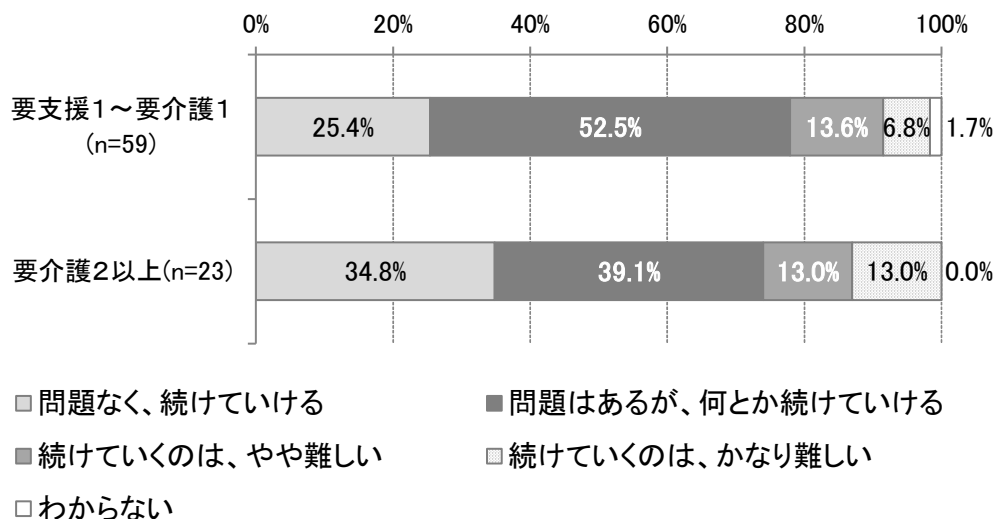
また、認知症状への対応はどの介護者にとっても不安を感じている。



(2)施設等検討の状況

A問8 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、回答してください（1つを選択）

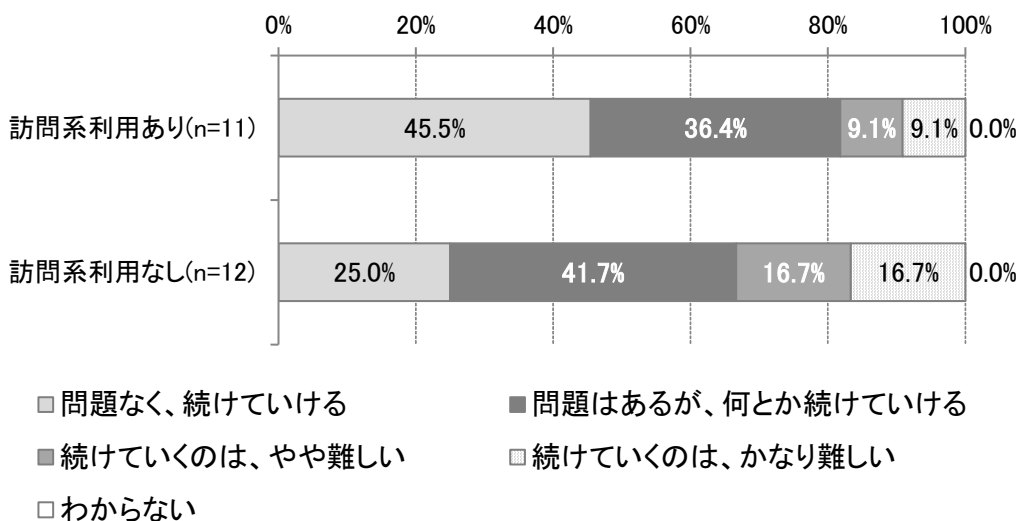
要介護2以上のほうが要介護1以下よりも、より多くのサービス利用ができる分、仕事と介護の両立を「問題なく、続けていける」意識が高い一方で、就労継続が難しいという意識も高い。仕事と介護の両立のためには適切なサービス利用が重要と考えられる。



(3)就労継続見込み

B問10 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）
※就労している人への質問

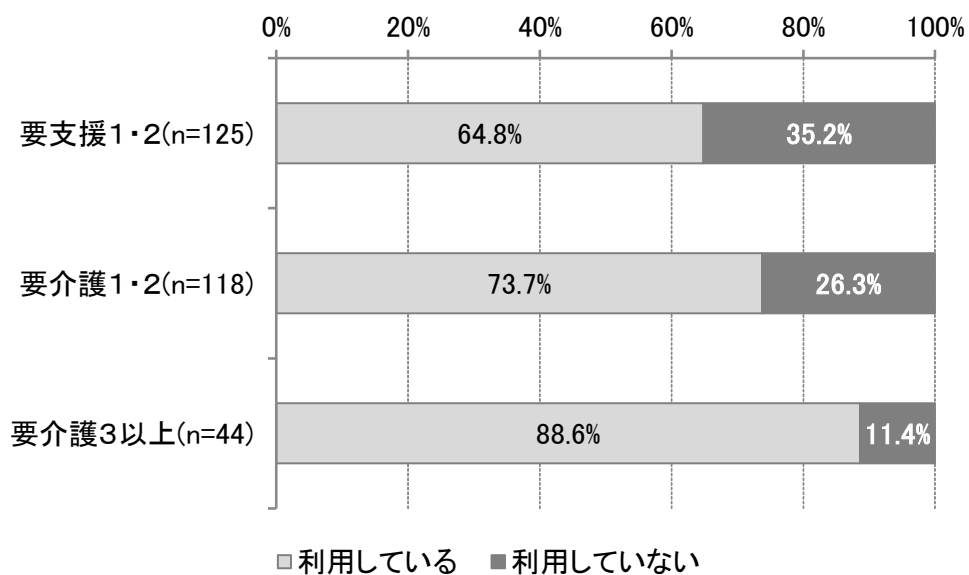
要介護2以上の介護をしている人のうち訪問系サービスを利用しているほうが、就労継続可能と考える割合が高い。訪問系サービスの利用が、仕事と介護の両立への貢献している可能性がある。



3 在宅療養を支える支援・サービスについて

A問7-1 あなた（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）
※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等を含みません。

訪問診療のニーズはいずれの要介護度でも高く、要支援1・2でも64.8%が利用している。

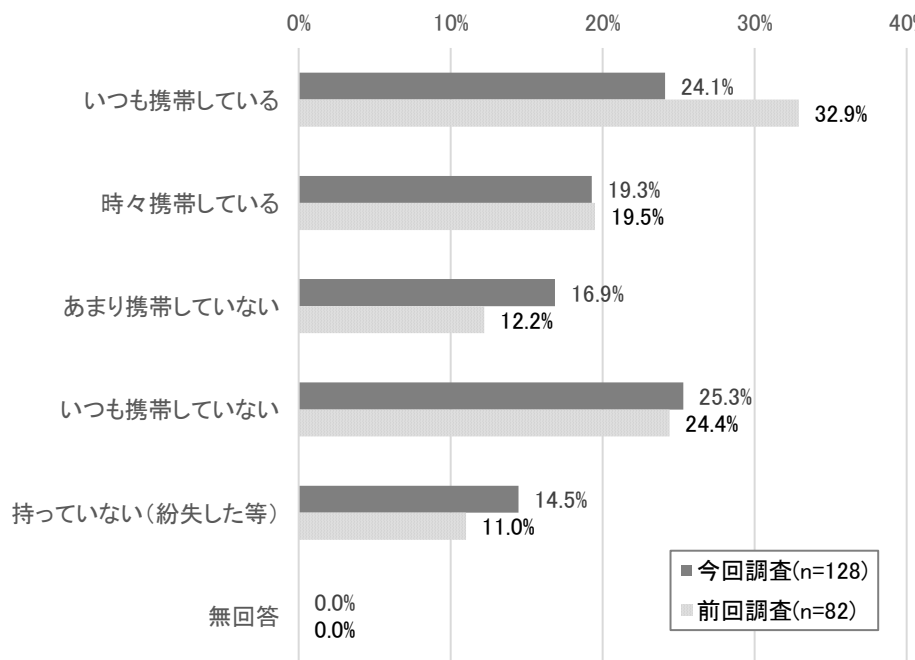
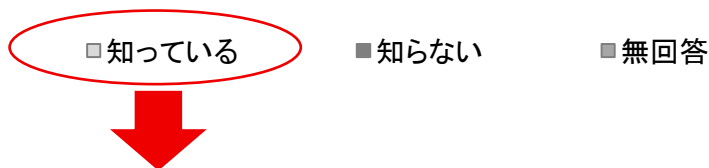
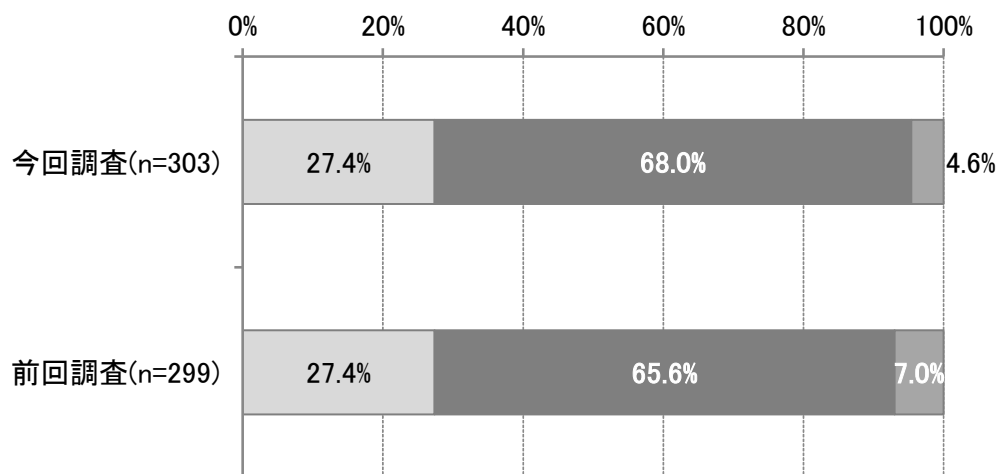


4 その他

A問 9－1 あさひかわ安心つながり手帳（黄色い手帳）を知っていますか（1つを選択）

A問 9－2 外出するときに、あさひかわ安心つながり手帳を携帯していますか（1つを選択）

（介護保険サービス利用者の）あさひかわ安心つながり手帳の認知度は、前回調査と同水準となっている一方、いつも携帯している割合は減少している。

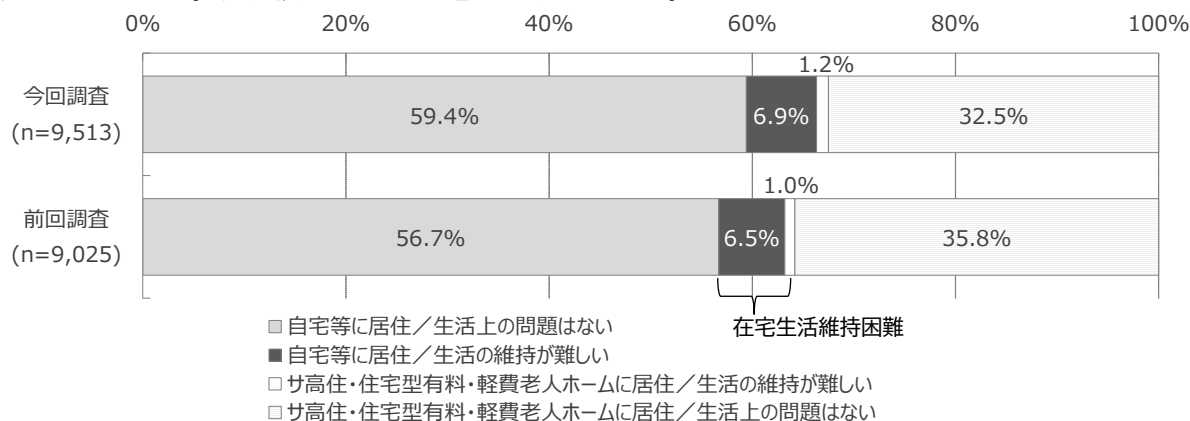


在宅生活改善調査【概要】

1 在宅生活の維持

・在宅生活の維持が難しくなっている利用者

ケアマネジャーに、担当する利用者で、自宅等で生活されている方のうち「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」について回答いただいたところ、その利用者の割合は合計で8.1%となっている。前回調査と大きな違いはみられない。



・在宅生活の維持が難しくなっている利用者の属性

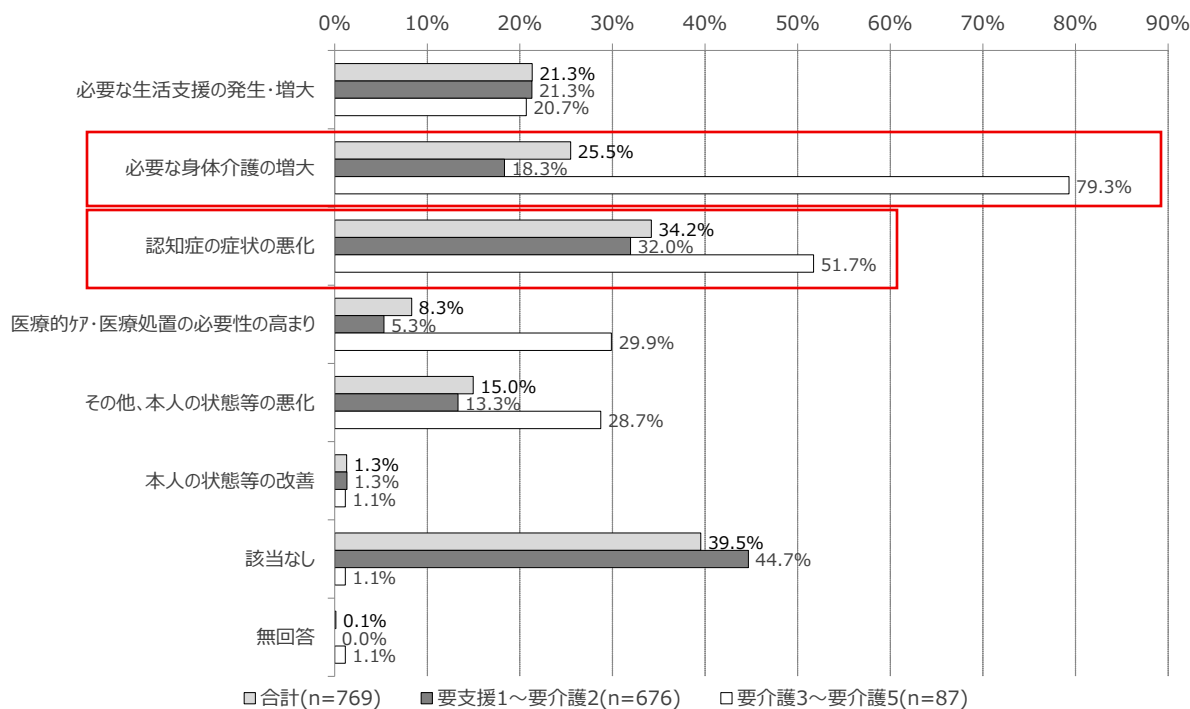
在宅生活の維持が難しくなっている利用者の属性は、「独居で、自宅等（持ち家）に住む、要介護2以下」の割合が37.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯で、自宅等（持ち家）に住む、要介護2以下」が高くなっています。上位9パターンは、全て「要介護2以下」となっています。

順位 (上位10類型)	回答 実数	粗推計	割合	世帯類型				居所			要介護度	
				独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	自宅等（持ち家）	自宅等（借家）	サ高住・住宅型有料・軽費	介2以下	介3以上
1	288人	288人	37.5%	★				★			★	
2	96人	96人	12.5%		★			★			★	
3	71人	71人	9.2%	★					★		★	
4	47人	47人	6.1%				★	★			★	
5	42人	42人	5.5%			★		★			★	
6	36人	36人	4.7%		★				★		★	
6	36人	36人	4.7%	★						★	★	
8	23人	23人	3.0%				★			★	★	
8	23人	23人	3.0%			★				★	★	
10	21人	21人	2.7%		★			★				★
上記以外	86人	86人	11.2%									
合計	769人	769人	100.0%									

2 在宅生活の維持が難しい理由

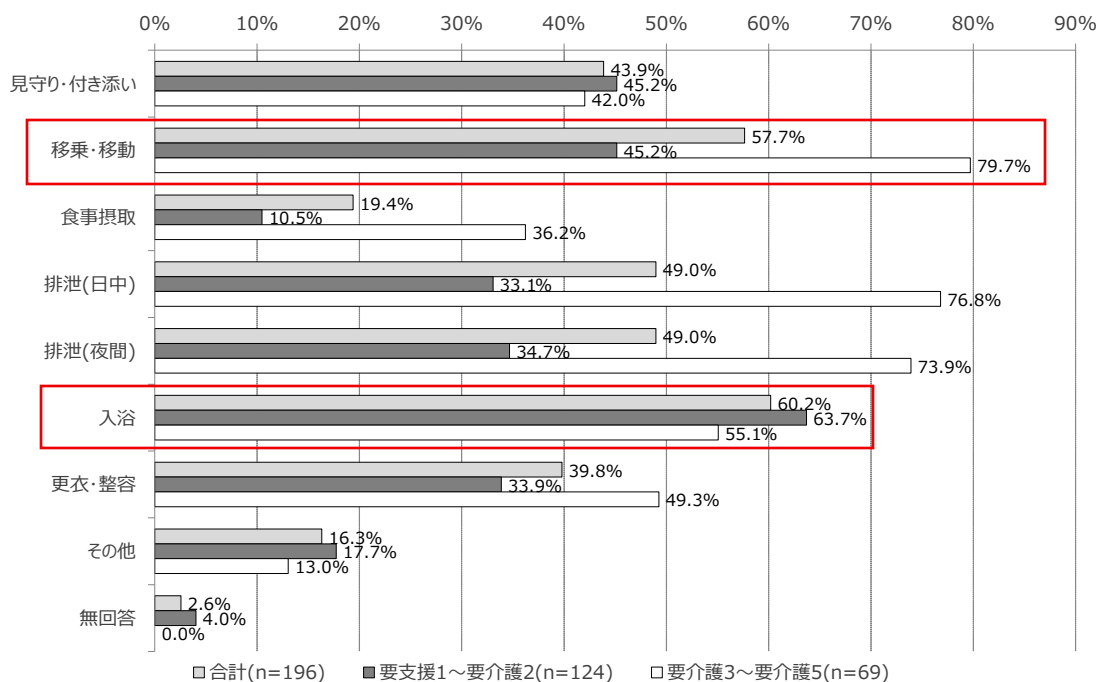
・本人の状態に関すること

ケアマネジャーから見て在宅生活の継続が困難な要因として、要支援1～要介護2は「該当なし」を除くと「認知症の症状の悪化」の割合が最も高く、要介護3以上は「必要な身体介護の増大」の割合が最も高くなっている。



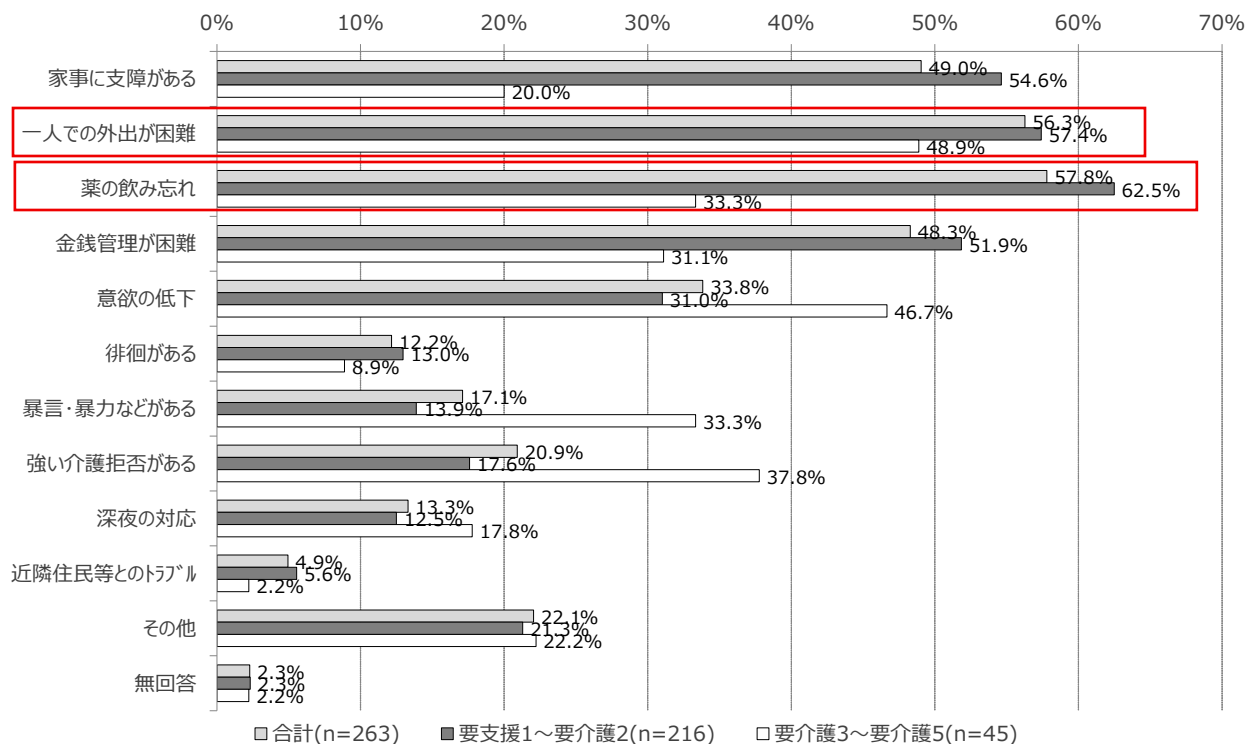
・「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容

在宅生活継続が困難な方に必要な身体介護としては、要支援1～要介護2は「入浴」の割合が最も高く、要介護3以上は「移乗・移動」の割合が最も高くなっています。



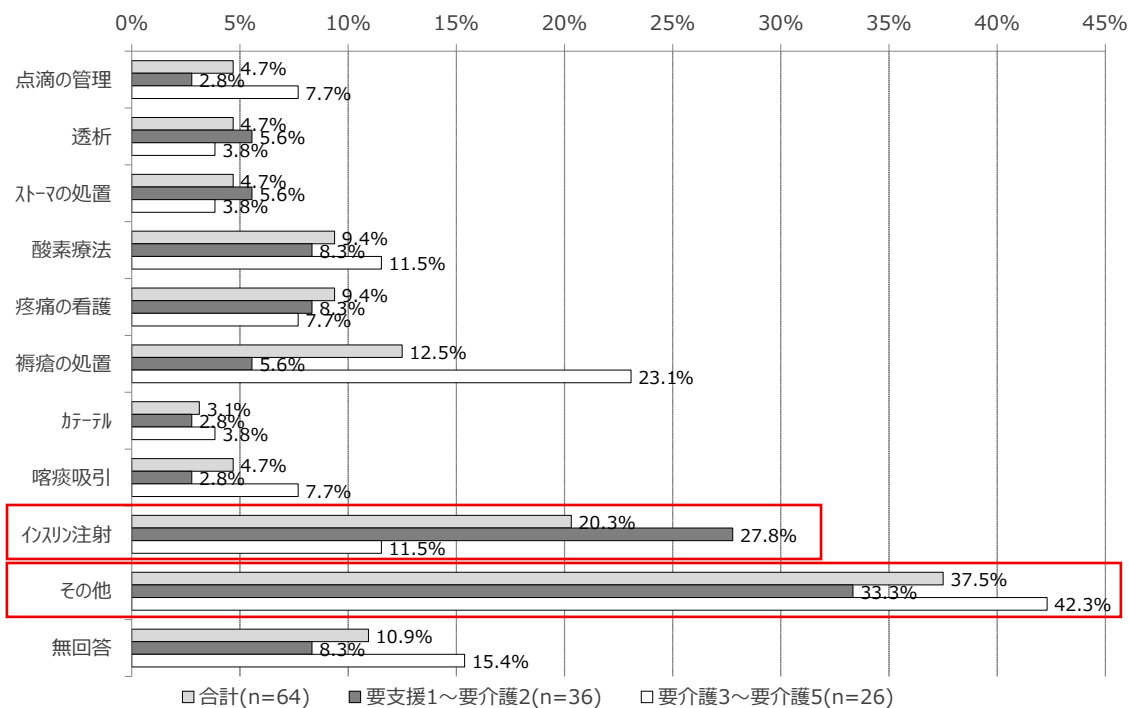
・「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容

在宅生活継続が困難になる認知症の症状としては、要支援1～要介護2は「薬の飲み忘れ」の割合が最も高く、要介護3以上は「一人の外出が困難」の割合が最も高くなっている。



・「医療的ケア・医療的処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容

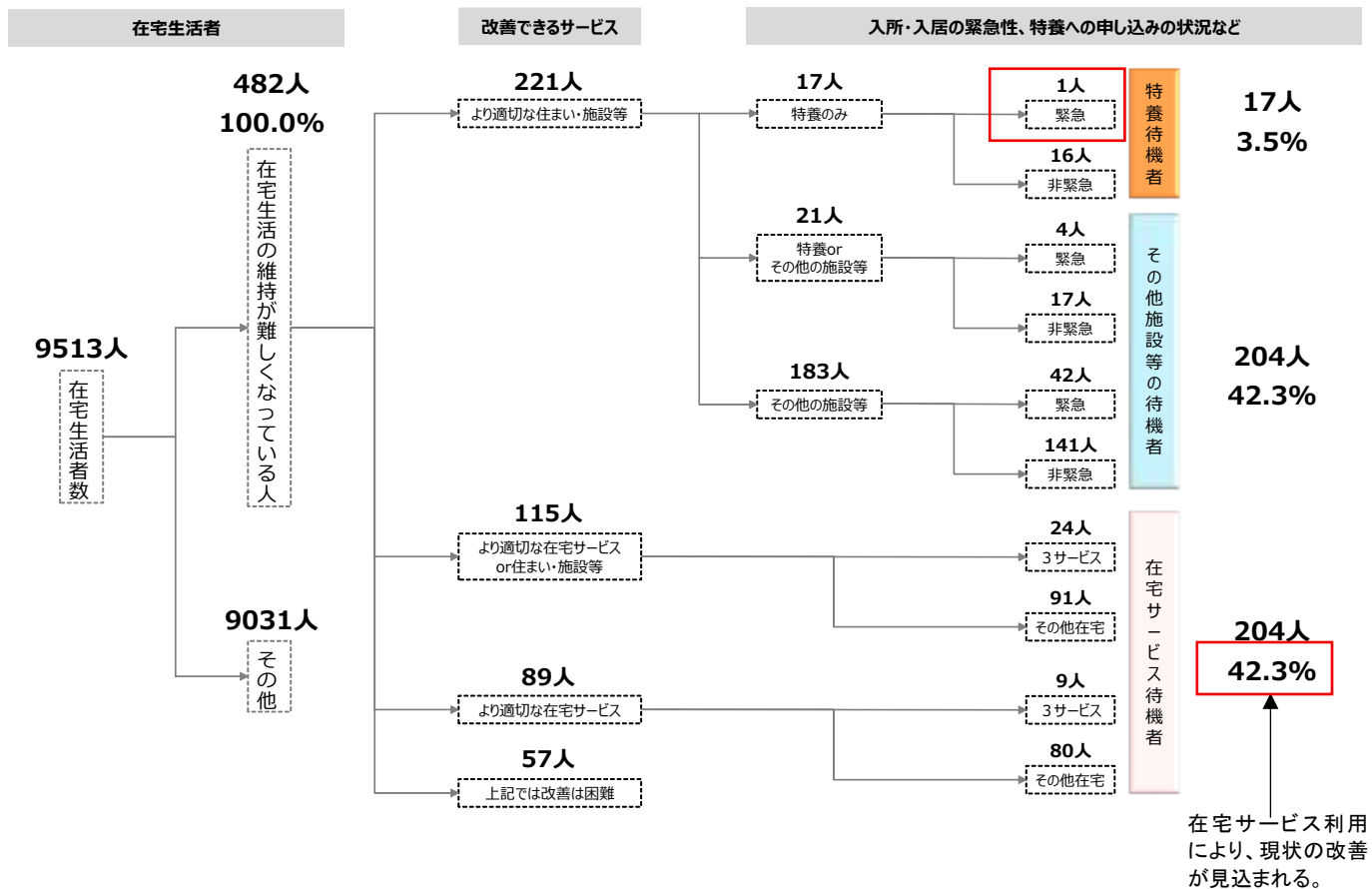
在宅生活継続が困難な方に必要な医療的ケア・医療的処置としては、その他を除くと、要支援1～要介護2は「インスリン注射」の割合が最も高く、要介護3以上は「褥瘡の処置」の割合が最も高くなっている。



3 在宅生活の維持に必要なサービス

・「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更

在宅生活の維持が難しくなっている人のうち、「より適切な在宅サービス」を利用することで現状が改善すると考えられる利用者の割合が42.3%となっています。また、「より適切な住まい・施設等に変更する」と回答があった利用者のうち、「緊急で特養へ入所が必要な利用者」は1人とごく少数であり、特養以外の「その他施設等の待機者」の割合が42.3%と高くなっています。



・「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービス(複数回答)

上記設問の「より適切な在宅サービス」としては、「訪問介護、訪問入浴」の割合が最も高く、次いで「ショートステイ」、「訪問看護」となっています。

また、「その他施設等の待機者」は、「住宅型有料老人ホーム」の割合が最も高く、次いで「グループホーム」となっています。

生活の改善に必要なサービス	その他施設等の待機者(204人)	在宅サービス待機者(204人)
住まい・施設等	住宅型有料 131人 64.2%	住宅型有料 67人 32.8%
	サ高住 35人 17.2%	サ高住 15人 7.4%
	軽費老人ホーム 11人 5.4%	軽費老人ホーム 6人 2.9%
	グループホーム 88人 43.1%	グループホーム 35人 17.2%
	特定施設 22人 10.8%	特定施設 9人 4.4%
	介護老人保健施設 12人 5.9%	介護老人保健施設 14人 6.9%
	介護医療院 2人 1.0%	介護医療院 7人 3.4%
	特別養護老人ホーム 21人 10.3%	特別養護老人ホーム 20人 9.8%
在宅サービス	-	ショートステイ 58人 28.4%
	-	訪問介護、訪問入浴 63人 30.9%
	-	夜間対応型訪問介護 9人 4.4%
	-	訪問看護 57人 27.9%
	-	訪問リハ 33人 16.2%
	-	通所介護、通所リハ、認知症対応型通所 51人 25.0%
	-	定期巡回サービス 17人 8.3%
	-	小規模多機能 15人 7.4%
	-	看護小規模多機能 9人 4.4%
	-	訪問診療 21人 10.3%
	-	居宅療養管理指導 17人 8.3%

生活の改善に向けて、代替が可能

【参考】前回調査の結果

生活の改善に必要なサービス	その他施設等の待機者(267人)	在宅サービス待機者(276人)
住まい・施設等	住宅型有料 146人 54.7%	住宅型有料 81人 29.3%
	グループホーム 113人 42.3%	グループホーム 59人 21.4%
	サ高住 46人 17.2%	特別養護老人ホーム 29人 10.5%
	介護老人保健施設 36人 13.5%	特定施設 24人 8.7%
	特別養護老人ホーム 35人 13.1%	介護老人保健施設 19人 6.9%
	特定施設 32人 12.0%	サ高住 17人 6.2%
	軽費老人ホーム 15人 5.6%	軽費老人ホーム 8人 2.9%
	療養型・介護医療院 15人 5.6%	療養型・介護医療院 6人 2.2%
在宅サービス	-	ショートステイ 109人 39.5%
	-	訪問介護、訪問入浴 94人 34.1%
	-	通所介護、通所リハ、認知症対応型通所 92人 33.3%
	-	訪問看護 64人 23.2%
	-	小規模多機能 64人 23.2%
	-	定期巡回サービス 50人 18.1%
	-	訪問リハ 36人 13.0%
	-	夜間対応型訪問介護 19人 6.9%
	-	看護小規模多機能 19人 6.9%